

<p>①設定 目標</p>	<p>～つくる～ 学ぶ喜びを感じる魅力ある授業の創造</p>
<p>②本年度 の取組み 状況</p>	<p><つけたい力> * どんな変化にも柔軟に対応できる基礎学力 * 自ら主体的に学ぶ姿勢 * 他の考えを聞き、自分の考えを深め、表現する力</p> <p><研究テーマ> ・主体的に「考動」することも</p> <p><目標達成のための主な取組み></p> <p>○町研究指定、校内研究の成果の発信</p> <p>●小中一貫教育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同教育活動の充実とスムーズな運営の体制づくり ・グランドデザインを踏まえた1～9年まで系統性ある枠組みの構築 ・中期学部の系統的・横断的な教育活動の充実 ・義務教育学校開校に向けた9年間の教育課程実施に係る教職員間の方向性の共有 ・研究授業 【実施日、学年、教科、指導助言者】 <p>7/2 6年 理科 11/11 4年 国語 11/17 8年 数学 中繁樹先生 (1・2年目教員育成指導員) 12/5 5年 英語</p> <p>●ICT活用教育の実践〔小〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“NEXT GIGA”のフェーズに向け、タブレット端末をより効果的に活用した児童生徒への学習指導の改善・充実 ・授業支援ツールの活用やCBT方式の導入など、教育のDX化の推進による教職員業務の効率化と生産性の向上 ・研究授業 【実施日、学年、教科、授業者、指導助言者】 <p>7/9 6年 理科 森本 謝花指導主事 (豊能町教育委員会)</p> <p>●教育委員訪問 【実施日、学年、教科】</p> <p>6/27 中・後期学部校舎 5～9年 6/30 前期学部校舎 1～4年 12/10 9年 数学 12/11 4年 算数</p> <p>○スクールエンパワーメント (SE) 推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度、豊能町から「確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校」の指定 ・町の課題である「主体的に学びにむかう力」「学びを自己調整していく力」「情報を正確に読み取り、説明する力」の育成をめざし、「主体的・対話的で深い学び」がより充実した授業づくりに向けた取組みを実施 <p>11/7 公開授業 7年 社会 8年 理科 9年 保健体育</p> <p>記念講演 小松 郁夫 先生 (国立教育政策研究所名誉所員/豊能町教育委員) 「豊能町の子どもたちの課題解決に向けて、主体的に『考動』させるには。」</p>

○小中学校教職員合同研修 とよの未来科～東能勢 style～など

- 7/25 学年を超えて取り組めそうなことの共有
- 12/24 各学年から「これまでのとよの未来科の実践と今後の展望」
令和8年度に向けた調整事項の検討
- 春季未定 各学年の次年度の方針の共有

○5・6年 教科担任制

深い教材研究や教員の専門性を発揮し、子どもたちの学習意欲と学力の向上を図ること、複数の教員が子どもに関わることで、問題の早期発見につなげ、生活指導に役立てること、小中学校間の連携を推進し、小学校から中学校への円滑な接続を図ることをねらい、令和4年度から5・6年に教科担任制を導入。

中学校籍の教員が算数、英語を担当し、国語、社会、理科、音楽、図工、家庭は小学校籍の教員が教科を担当する体制をとりました。

○相互授業参観「見に来て♪週間」

前期学部校舎、中・後期学部校舎それぞれで約1週間の期間を設定。校舎を越えて教員同士で授業参観を通して、お互いに助言を行い目的の達成をめざしています。

【目的】

- ・子どもたちが主体的・意欲的に学べる授業づくりの実践を進めます。
- ・教師の授業力を向上します。

【実施時期】 6月、11月、2月

○朝タイムを活用した学力充実の取組み〔前期学部 1～4年〕

朝読書、教職員・地域ボランティアによる絵本の読み聞かせ（月1回）

○東能勢小スタンダード（授業規律）

授業に向かう基本の姿を教員間で確認し、児童と共有することで授業規律を整え、学習に向かう意欲を高める取組みを行っています。

【例】

- ・児童も教師も時間を守っている
- ・チャイムまでに授業の準備ができています
- ・机に必要なもの以外を置いていない
- ・あいさつをしている
- ・発言の際、名前を呼ばれたら「はい」と返事をしている
- ・必要な時以外の離席はない
- ・ノートを書くときは下敷きを敷いている（コンパスなど使う時以外）
- ・正しい姿勢でいすに座っている

○タブレットドリルの活用〔1～6年〕

朝学習の時間や授業中課題が終了した後のすきま時間などにタブレットドリルを活用した補充学習を実施しました。問題に取り組むとその場ですぐに自動採点され、苦手なところを繰り返し学習したり解説動画を視聴したりすることができ、個別最適化された学習を自分のペースで進めることができることなどがメリットです。「紙による学習」と「1人1台端末による学習」を使い分けながら、効果的な学習を進めていきます。

○自学自習

- ・学校で習ったことの定着をめざしたり、自分の得意な分野の学習を深めたりすることを目的に、令和4年度から全学年で自学自習に取り組んでいます。担任以外の教員もコメントを書き、複数の教員で子どもたちの学習を評価するようにし、子どもたちの学習意欲の向上につなげています。また、自学ノートを学級通信や教室掲示、廊下掲示などで紹介することを通して、子どもたちの達成感や主体性、自己肯定感などが高まるように工夫しています。
- ・中学校校舎では長期休暇の自由課題として設定し、自らの興味のある内容について探究学習に取り組みました。

○児童生徒会とともに作る学習規律・学習習慣〔中後期〕

- 長期休業中の補習（5～9年）、テスト前自習室（7～9年）、学習クラブ（5・6年）
 - ・家で集中しにくい児童生徒が、少しでも学校で勉強できるように時間と場所を提供し、自学習やわからないところを質問できる機会を設定しました。
- 児童生徒玄関ピロティに自習スペースを新設
- 学習に関するアンケートを活用した振り返り
 - ・全校児童生徒が学習に関するアンケートを毎学期末に実施して、自分自身とクラスの振り返りを行いました。グラフに表して児童生徒集会や学級会で発表し、今後の方向性を確認し合いました。

<学校教育自己診断の結果より>

※（今年度←昨年度の肯定的な回答の数値〔今年度←昨年度の「そう思う」の数値〕）

肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

※構成比は端数処理の都合上、合計は必ずしも100%とはなりません

※令和4(2022)年度から「分からない」という選択肢をなくしています

※令和6(2024)年度から小学校と中学校の設問を統合しています。設問の前の記号は以下の内容を示しています。■…2023年度まで小学校のみ、◇…2023年度まで中学校のみ、で質問していた設問の結果の数値。その他の質問は、これまで小学校と中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数値
児童生徒アンケートの結果において、同じく肯定的な回答は下のとおりです。

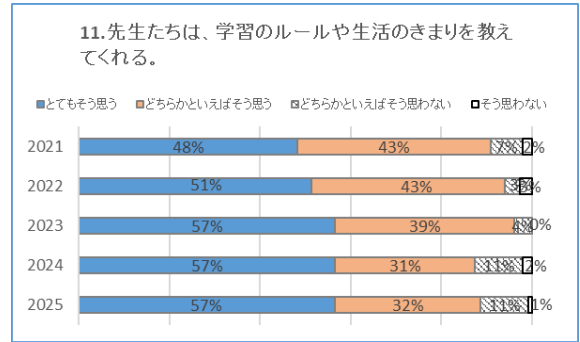
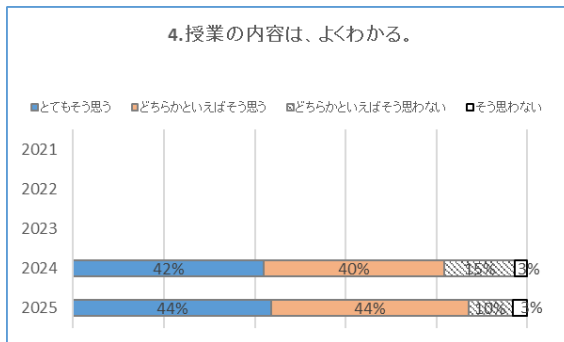
「授業の内容は、よくわかる」(88%←82%〔44%←42%〕)〔下図〕

「◇授業などで自分の考えを発表する機会がある」(89%←85%〔45%←48%〕)

「◇授業などで友達と話し合う活動が行われている」(95%←94%〔56%←65%〕)

「先生たちは、学習のルールや生活のきまりを教えてくれる」(89%←88%〔57%←57%〕)

〔下図〕



③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容

基礎基本の学習の定着を図り、主体的に学習へ向かう意欲を高めることをねらいとして、授業での取組み、「とよの未来科～東能勢 style～」での取組みを進めていきます。1年生から基礎基本の積み上げや学習意欲の向上をめざすとともに、「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践を行います。それに加えて、自分の意見をまとめ、友達と交流し、さまざまな考え方にふれることができる授業づくりをめざします。

また、学級活動、縦割り活動で様々な交流から学びを深めたり、「とよの未来科～東能勢 style～」を通して、課題解決に向けて自ら考えたことを発表する活動、探求し自分の考えと仲間との考えの違いを交流する活動を行ったりすることで、基礎学力を自主的に活用する機会の創出を行います。

保護者アンケートを令和5(2023)年度からインターネットを活用したアンケートに変更しています。回答率は今年度も昨年度同様の約80%となりました。回答率を100%に極力近くように案内などを工夫し、アンケート結果をより多くの方の声が反映されたものになるように努めていきます。

保護者アンケートの結果において、特に学力向上に関わる項目について肯定的な回答は下のとおりです。

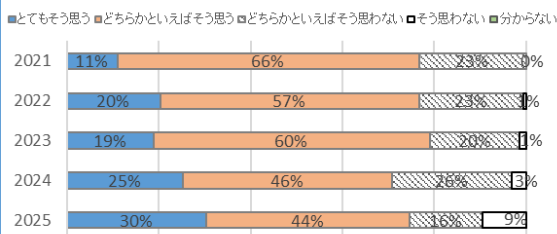
「子どもは授業がわかりやすいといっている」(74%←71%〔30%←25%〕)〔下図〕

「学校は、学習や生活のきまりを指導している」(81%←78%〔41%←39%〕)

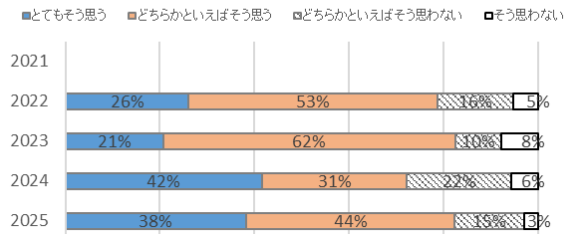
「学校は、教育方針や教育活動の様子を、学校(学級)だよりやホームページなどで分かりやすく伝えている」(82%←78%〔56%←43%〕)

「(5・6年の保護者のみ回答)5・6年生が教科担任制になったことは、学力向上につながっている」(82%←73%〔38%←42%〕)〔下図〕

2.お子さんは、授業がわかりやすいといっている。



17.【5・6年生の保護者のみ回答(その他の学年の方は次の設問へ)】5・6年生が教科担任制になったことは、学力向上につながっている。



家庭での学習にどのくらい取り組んでいるかの項目についての児童生徒のアンケート結果は下図のとおりです。

学校で学習しただけでは、時間がたつと忘れてしまいます。家庭でも、継続して繰り返し取り組んでいくことで、基礎学力の定着につながります。学習を計画的、継続的に行うことを身につけていく必要があります。

家庭で子どもが学習に取り組んでいることに対し、自己肯定感の高まるような声掛けを積極的にしていただくことで、学習意欲の向上につなげていきたいです。

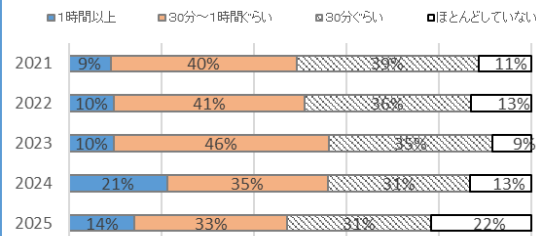
家庭学習の目安時間としては、学年×10分以上としており、発達段階に合わせ、以下のような姿をめざします。

- 1・2年 → 学校の宿題ができる。家庭でも学習しようという気持ちももてる。
- 3・4年 → 学校の宿題が確実にできる。宿題以外にも少しずつ家庭学習ができる。
- 5・6年 → 学校の宿題が確実にできる。自主的な家庭学習ができる。
- 7～9年 → 規則正しい生活リズムで、学習時間の確保をし、その日の復習、明日の予習、テストに向けての学習を計画的・継続的にできる。

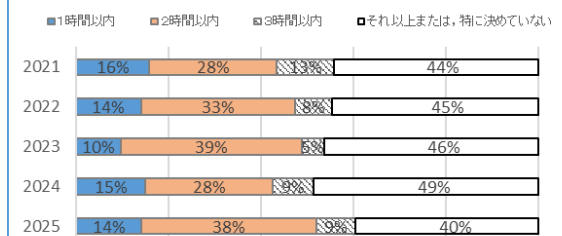
家庭学習の継続と習慣化のために、教育委員会が作成した、児童一人ひとりの力を伸ばすためのリーフレット「家庭学習のススメ」をぜひ、各家庭においてもご活用ください。



21.お子さんは、毎日どれくらい家庭学習をしていますか。(宿題は含む。塾や習い事は除く。)



22.お子さんとテレビ(スマートフォン、タブレットやゲームも含む)を見る時間を決めていますか。



④ 学校関係者評価 (学校運営協議会等からの提言)

- (○) 評価できる点 (●) 課題とする点 (☆) 提言等
- 昨年度とのパーセンテージとの差は多少上がり下がりはあるものの、概ね高い評価が上がっているところは良いと思う。
- 先生方の様々な授業の工夫も大いに評価したい。
- ICT を積極的に活用した効果的な学習の実践は、とても良いと思う。園でも参考にしていきたい。
- 主体的な学習への取り組みとして、自学自習の取り組みは効果的だと思う。好きなこと、得意なことをさらに引き出すための教員の工夫も聞いてみたい。
- 東能勢小スタンダード(授業規律)での取り組みで、学習への基本姿勢を示していくことはとても大事だと思う。児童がそれを自分ごとと捉えることができるように、自分たちにとってなぜそうすることが有効なのかという対話を行い必要性を考えることができれば、さらに意識してできてよいのではと思う。(すでに実践されていると思いますが)
- そもそもの〈つけたい力〉がとても良いと感じます。そのような大人になってほしいと思います。

- 授業の内容がよくわかる おおよそ9割の児童生徒の返答があり、良いことだと思う。昨年も高評価だったが、それを上回る回答で素晴らしいと思う。
- 教科担任制が浸透し、高評価を得られていて、先生方の努力が保護者にも届いてよかった。
- 学校が楽しい、授業が分かりやすいという、アンケート結果の上昇。
- 教科担任制導入による学力向上。
- 小中一貫教育を通じて、1～9年間の系統的な学習の枠組みが構築できている。
- 研究授業や相互参観などを通して、授業改善や教員の授業力向上が図られている。
- ICTを活用した個別最適な学びが実施できており、児童生徒の主体的な学習態度が育成されている。
- 自学自習ノートなどにより、学びを可視化し、自己調整力を養う取組が定着している。
- 授業内容はよくわかると肯定的に回答している割合が増加しているのは学校、教員の努力だと評価できる。
- アンケート結果から授業が分かる・発表や話し合いの機会があると答える児童生徒が多い。
- ICT活用教育の実践、5・6年担任教科制、相互授業参観「見に来て週間」、朝タイムを活用した学力充実の取組みが、教科担任制は、教師の負担軽減と生徒の学力向上に寄与していると思う。
- 自学自習について。担任以外の教員がコメントを書いたり、自学ノートを掲示して頑張りを紹介することにより、子どもたちのやる気を育て、学習意欲の向上につながるよう工夫している。
- 東能勢小スタンダード（授業規律）について。例をみるとあたりまえの事のようにだが、なかなか難しい子どももいるのではないかと思う。これからも引き続き取り組んでいってもらって当たり前になってほしい。
- 5・6年の教科担任制の導入、自学自習、朝タイムでの学力充実、複数教員との関りなどは、学力アップにつながり評価できる。
- 保護者アンケートで家庭学習の時間について減少傾向であったり児童生徒アンケートで読書時間が減っている（塾などに行く子どもが増えたとも考えられるが）反面、テレビやスマホを見る時間が長くなっていたり寝る時刻が遅くなってきたりしていることが気になる。家庭にも啓発し協力を求めていくことも必要かもしれない。（スマホやタブレットの使い方のルールを決めている子どもは増加しているのですが…）
- 授業の内容かわかるか？の質問に「そう思わない」が前年度と同じパーセンテージであるので、心配。自宅での自習時間が少ないが、塾や習い事が増えたのか？宿題の量が少ないのか宿題以外の学習の方法がわからないのだろうか？
- 取組みが設定目標を達成するためのものであるかは少し疑問です。
- 引き続き、少人数校ならではの生徒一人一人の基礎学力向上。
- 教科担任制導入による学力向上の効果が見えにくいため、継続的な分析と説明が求められる。
- 家庭学習の面で保護者が学校の思いを受け止め、一緒に子どもたちの学力向上につながるようサポートされることを期待したい。
- ☆実際のところはわかりませんが、ルールはもちろん大切とも思いますが、守る守らないというよりも、なぜそのようなルールがあるのか、そういったことを子どもたちが深めていただけるようにしていただけたらと思う。
- ☆家庭学習の面でも、保護者が学校の意志を受け止め、一緒に子どもたちの学力向上につながっていくようサポートしていかれることを期待したい。
- ☆スマホを見る時間を決めていない家庭が、40%の返答で、これをよくないことと認識していない。情報の危険性を含め、スマホやタブレットを持たせたときに立ち返ってルールを子どもと一緒に作ってほしい。
- ☆児童生徒の学びの成果を保護者や地域と共有し、学校全体の教育力向上に繋げていくべきである。
- ☆基礎学力向上に向けて子どもたちがさらに学習意欲が向上するような授業改善をめざしてほしい。
- ☆さらなる学力向上をめざし基礎学力が定着するよう取組みを続けてほしい。
- ☆学習時間、読書時間の少なさに反比例して、スマホ・ゲームなどに費やす時間が多いのが気になる。

<p>①設定 目標</p>	<p>～はぐくむ～ しなやかな心と体の育成</p>
<p>②本年度 の取組み 状況</p>	<p><育てたい資質> * 自己を大切に、他者を思いやり、互いの個性や違いを尊重する心 * 多面的・多角的に考え多様性を生きぬく豊かな人間性</p> <p><研究テーマ> ・主体的に「考動」することも</p> <p><目標達成のための主な取組み></p> <p>○朝タイムを活用した集団づくり [1～4年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火曜日：児童朝会（不定期） 児童会の主体的な活動の機会としています。 ・金曜日：朝レク・たて割り班遊び クラスで何をして遊ぶかを話し合い、みんなが楽しめる活動になるよう合意形成を図っています。また、活動の後にはふり返りを行うことで課題を共有し、次の遊びがさらに良くなるよう意見交換をしています。月初めの金曜日は、たて割り班での合同遊びです。日頃たて割り掃除をリードしている4年生が中心になり、1～4年での遊びを進めています。 <p>○つながりタイム [1～6年]</p> <p>人権学習や集団づくり、地域学習など、各学年で大事にしてきたことについて、その取組みの様子や学んだことを他学年へ発表しています。相手意識をもった発表をとおして一人ひとりの主体性を高めたり、自分たちの取組みを肯定的に評価してもらうことで、達成感や充実感、自己肯定感を高めたりする機会としています。</p> <p>○ゲストティーチャーによる授業など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●交通安全教室 [1・3年] (5/1) 【講師】豊能警察署の方 ●習字 [3～6年] (5/20、9/16、10/28) 【講師】新貝廣二さん ●租税教室 [6年] (5/21) 【講師】豊能税務署の方 ●ソプラノ歌手講演 [1～4年] (5/28) 【講師】清水(大崎)友美さん (関西歌劇団) ●火災避難訓練 [1～4年] (5/23) 【講師】消防署東出張所の方 ●JA 出前授業 [5年] (6/18) 【講師】JAの方 ●オイスカの研修生と交流 [全学年] (6/28) 【研修生】5人 (フィリピン) ●非行防止・犯罪被害防止教室 [5・6年] (7/18) 【講師】スクールサポーター ●ダイハツものづくり体験教室 [5年] (12/12) 【講師】ダイハツの方 ●防犯教室 [5～9年] (7/19) 【講師】スクールサポーターの方 ●防犯教室 [6年] (8/28) 【講師】豊能警察署の方 ●車イス体験学習 [4年] (12/2) 【講師】豊能町社会福祉協議会の方

- 食育〔3・6年〕(11/18)
【講師】栄養教諭
- 食育〔5年〕(11/12)
【講師】豊能町食生活改善推進員
- 非行防止教室〔5年〕(11/13)
【講師】池田少年サポートセンターの方
- 国際理解学習〔9年〕(11/28)
【講師】大阪大学の留学生の方
- キャリア教育〔6年〕(12/5)
【講師】新聞記者の方
- 認知症サポーター養成講座〔4年〕(3学期)
【講師】社会福祉協議会の方、地域包括支援センターの方、豊能町認知症キャラバン・メイトの方
- キャリア教育〔6年〕(1/30)
【講師】元イルカ調教師の方
- キャリア教育〔6年〕(2/12)
【講師】エマコーヒーの方
- キャリア教育〔6年〕(2/26)
【講師】卒業生の方

○委員会活動

〔1～4年〕

- 児童会 運動会スローガン作成、運動会児童会種目の検討、草刈り大会、児童会生徒会交流会
- 健康美化委員会 ケンケンだるまさんがころんだ大会
- 図書放送委員会 図書室クイズ、本のしおりづくり、お話クイズ(予定)

〔5～9年〕

- 児童生徒合同の委員会活動
役員会・代議員会・選挙管理委員会、文化委員会、保体委員会、生活委員会、放送委員会に分かれて活動。放送や図書など日常の活動や行事などにも5年生から9年生まで学年を超えて関われる場面を設定した。

○校外学習、宿泊学習

- 1～9年 EXPO 2025 大阪・関西万博
- 5年 湖畔学習(びわ湖青少年センター)
- 6年 修学旅行(広島市内・宮島)
- 7年 淡路島、野島断層保存館など
- 9年 修学旅行(東京方面) JICA 地球広場、東京ディズニーランドなど

○総合的な学習の時間・学級活動における集団づくり、人権意識を高める各学年の取組み

集団づくりのねらいも目的の一つである総合的な学習の時間を中心に「とよの未来科～東能勢 style～」については、地域との密接なつながりも兼ねて次項No.3で取り扱います。

- <1年> 『話そう 自分のこと 聞こう みんなのこと』
(校区めぐり、アサガオの色水、川の生き物探し、染め物体験、昔遊び体験)
- <2年> 『笑顔でつながろう 楽しく学ぼう』
(野菜名人と野菜作り、とよの場さんとヤーコン栽培、初谷川3小交流、町探検、染め物体験、ヤーコンクッキング)
- <3年> 『もっと知ろう 東能勢』
(町探検、はたらく人にインタビュー、豊能町の魅力発信、ほそごう学園との交流会)
- <4年> 『東能勢界限』
 - ・ひょうたんの栽培→スタードーム制作、ひょうたんアート、マラカスづくり
 - ・環境学習→国崎クリーンセンター見学、ごみ新聞づくり、アップサイクルアート
 - ・障がい者理解→車いす体験、盲導犬、視覚障がい者の方の出前授業・点字体験

- ・防災学習→自然災害について、防災倉庫調べ
 - ・これからの自分をみつめて→作文・スピーチ、前期課程修了セレモニー
- < 5年 > 『世界の中心で東能勢をさけぶ!』
- ・米づくりから学ぶSDGs→田植え、JA・食育改善推進員さんの出前授業、稲刈り、脱穀
 - ・ムダ0米づくり→しめ縄づくり、ごはんとみそ汁の調理実習
 - ・梅ジュースづくりから学ぶSDGs→梅つみ、梅ジュースづくり
- < 6年 > 『ミyakミyakつながる 人 いのち』
- ・日本の歴史→ヒロシマについて、平和学習
 - ・環境学習、特定外来生物オオキンケイギクの防除
- < 7年 > 地域創生、防災学習、キャリア学習（職場訪問）、周年記念事業に向けた取組みなど
- < 8年 > 防災学習、キャリア学習（職場体験学習）、SDGs、わくわくどきどきSDGsなど、周年記念事業に向けた取組み
- < 9年 > 体験学習（修学旅行 東京方面、）SDGs、キャリア学習、保育体験、国際理解学習（大阪大学留学生と交流）、周年記念事業に向けた取組みなど

○児童生徒理解、相談体制、情報共有の体制づくり

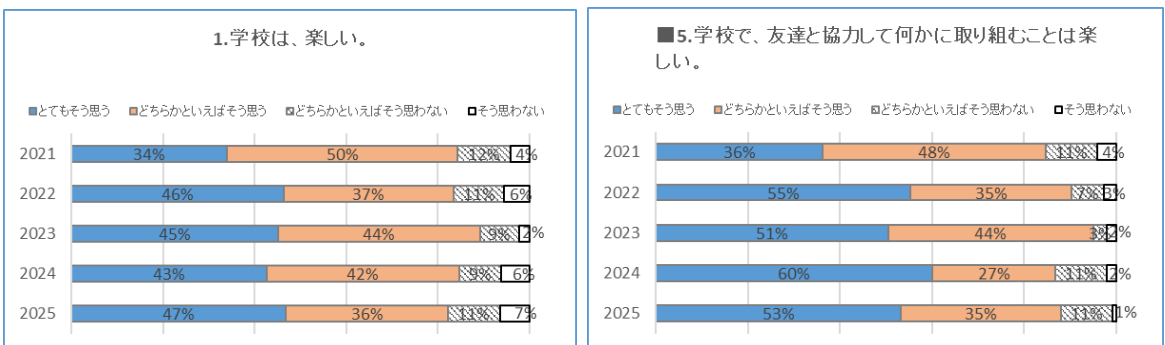
- 生活アンケートの実施（毎学期）
いじめ・不登校の初期対応、結果分析・検証に生かす
- 個別の課題などへの支援⇒児童生徒支援加配教員の配置（前期、中・後期各1名）
- 校内支援ルームの設置、担当配置
- 生活指導連絡会（=いじめ・不登校対策委員会）（毎週火曜日）
児童生徒理解・問題行動把握…小中合同で情報共有
- ミニ懇談（8月、11月、2月）の開催〔中後期〕
児童生徒の不安や悩みを聞く、学校生活状況を把握
- スクールカウンセラー、教育専門主事（適応指導教室）、専門機関（こども育成課・子ども家庭センター・スクールサポーター）との連携

<学校教育自己診断の結果より>

※注釈は、学校評価報告書（No.1）の③参照

児童生徒アンケートの結果において、同じく肯定的な回答は下のとおりです。
 「学校は、楽しい」（83%←85% [47%←43%]）〔下図〕
 「■学校で、友だちと協力して何かに取り組むことは楽しい」（88%←87% [53%←60%]）〔下図〕
 「■先生は話し合ったり決めたりするとき、子どもたちの意見や気持ちを聞いてくれる」（93%←92% [58%←55%]）
 「■学校で、友だちや先生にあいさつをしている」（91%←91% [52%←57%]）
 「■自分にはよいところがある」（66%←62% [32%←35%]）
 「学校には、こまったことや体のことなどを相談しやすい先生がいる」（71%←75% [43%←43%]）
 「先生たちは、いじめや困っていることについて一緒に考えようとしてくれている」（86%←92% [50%←60%]）
 「将来の夢や目標を持っている」（73%←79% [50%←59%]）

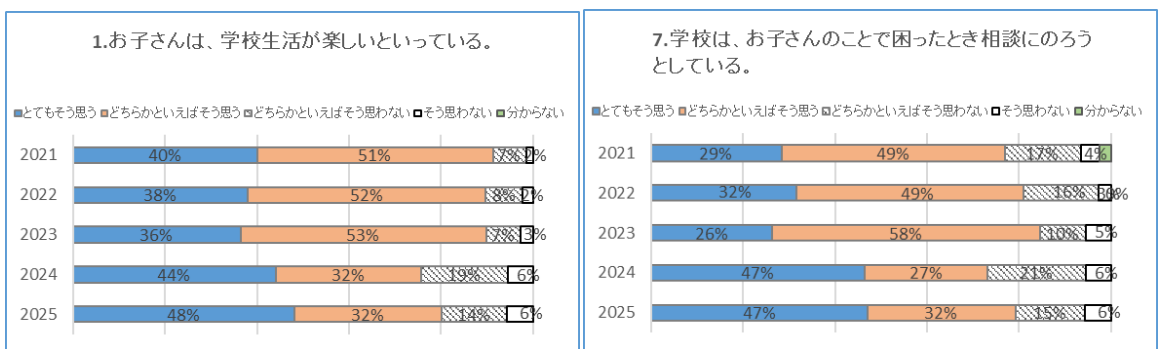
③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容



児童生徒一人ひとりと向き合うことを大切にして、信頼関係を築いていくことを意識している。また、集団づくりにおいて、個々のよさを活かしながら仲間とのつながりを育めるような活動をつくりあげたいと考えています。また、地域の方、外部講師の方の協力のもと体験活動を積極的に取り入れ、その中から学習へのつながりをもたせることで、より深い学びに発展させていくことをめざし、取組みを進めています。

保護者アンケートの結果において、特に学力向上に関わる項目について肯定的な回答は下のとおりです。

- 「おさんは、学校生活が楽しいといっている」(80%←76% [48%←44%]) [下図]
- 「おさんは、あいさつしたり感謝の気持ちを伝えたりしている」(85%←82% [42%←43%])
- 「おさんは、自分のよいところに気づいている」(66%←63% [28%←30%])
- 「学校は、子どもたちが協力し合って取り組む機会を持ち、豊かな心や思いやりの心の育成に努めている」(86%←78% [43%←37%])
- 「学校は、お子さんが努力したことをていねいに評価している」(82%←75% [43%←39%])
- 「学校は、子どものことで困ったとき相談にのろうとしている」(79%←74% [47%←47%]) [下図]
- 「学校は、いじめのない仲間づくりに取り組んでいる」(67%←66% [35%←34%])



<とよのチャレンジ体カテストの結果より>

- [1～6年]
 - 男女ともに20mシャトルランの記録が全国平均を下回っている。
 - 50m走、反復横跳び、立ち幅跳びに課題が見られる。
 <改善プラン>

体育の授業や委員会主催の活動を通して、「運動が好き、楽しい」と感じる児童を増やし、体育の授業に主体的に参加する児童を増やす。
- [7～9年]
 - 握力、上体起こし、50m走において、全国平均を上回っている学年が多い。
 - 20mシャトルラン、反復横跳び、長座体前屈において、全国平均を下回る学年が多いことから、「全身持久力」「瞬発力」「柔軟性」に課題がみられる。

④ 学校関係者評価
(学校運営協議会等からの提言)

- (○) 評価できる点 (●) 課題とする点 (☆) 提言など
- 委員会活動、校外活動や宿泊学習など、教科の学習ではないものへの取組みは子どもの心身の成長に大きく影響し、自信や達成感、仲間との協働性の高まりなどに必要な活動だと思う。東能勢小中学校は、東能勢フェスタや今年度は未来祭でも生徒がとても活躍していたので、授業数やカリキュラムなどで先生方もお忙しいと思うが、引き続き取り組んでほしいと思う。
- 今後とも、問題が起きた時に関係機関との連携を図り、子どもの内面や家庭的な環境へのサポートなどを行ってほしい。園もできることは協力し、地域の子どもたちが0歳から15歳まで、安心した環境の中で過ごせるようにしていきたい。
- 朝タイムを活用した集団作りなど、自分たちで企画することから考えていくというのは主体性につながりとてもよいと思う。またゲストティーチャーによる授業がたくさんあり、学校というある意味閉鎖的な中で色々な大人と関わっていけるというのも、多角的な見方の形成に大いに役立つのではないかなと思う。
- 今年度も学校の様々な取組み姿勢を大いに評価したい。
- 概ね学校での生活に困らず、生き生きと生活しているように感じられる。

○学校は楽しい、「とてもそう思う」が増えてよかった。

○友達と協力して取り組む、には「とてもそう思う」が50%を超える回答があり、多くの体験授業や特色ある取組みの効果だと考える。

○保護者の努力により、朝食を食べている生徒が多いことを評価する。

○将来の展望や夢に繋がるゲストティーチャーによる授業。色々な職業の方の話や体験は子ども達の成長の中で勉強する意欲に繋がる。

○異学年・縦割り活動、地域交流などを通じた多様な人間関係づくりが実施できている。

○学校は楽しい・協力することが楽しいと答える児童生徒が多く、学校生活への満足度が高い。

○キャリア教育や国際理解、福祉体験など多様な分野のゲスト講師による学びが充実している。

○いじめ・不登校への初期対応や支援体制が整備されている。

○学校が楽しいと感じている子どもたちが8割と比較的高いが、2割がそう感じていないのでこの子どもたちが楽しいと感じることができることが年に一つでもできるように工夫できるとよいと考える。

○たくさんのゲストティーチャーに来ていただき学習することは、子どもたちの視野が広がり自分の目標（将来の夢や希望）を持つことにつながっていると思うので今後も続けてほしい。

○朝タイムを活用した集団づくり、ゲストティーチャーによる授業などが、実践的な授業で有効な教育と思うが、準備などの先生方の苦勞がうかがえる。

○「学校が楽しい」という設問について。子どもたちも保護者たちも高い評価で大変うれしく思う。ゲストティーチャーによる多彩な授業やそれぞれの行事やその他の取組みにより、「学校で友達と協力して何かに取り組むことは楽しい」につながっているのだと思う。

○多くのゲストティーチャーとの授業が行われそのかわりの中で多くの知識や経験などを学ぶことができる。

- 体力（持久力、瞬発力、柔軟性）向上への具体的な取組みについて。
- 10番の質問に（いじめや困っていることについて）「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」の回答が増えている。
- 9番の相談しやすい先生がいる、にも30%の子どもが否定的。子どもたちが失望するようなことがあったのか心配。
- 日本全体のことと思いますが、自己肯定感が低いと思われるところは、どうしたらよいか考えていければと思います。周りの大人が自己肯定感のある大人であることが一番だとは思いますが。
- 自己肯定感（66%）や「将来の夢を持っている」児童生徒の割合（73%）がやや低い。
- 小学校低学年における体力（特に20mシャトルランなど）が全国平均を下回っており、運動習慣に課題がある。
- 困ったことなど相談しやすい先生がいるや一緒に考えてくれるという項目で肯定的に回答している子どもが若干だが減少している。来年度から今より多くの先生方がすべての子どもたちに関われる体制ができるので子どもたちの困っている声をぜひ聞き取ってほしい。
- この自然の中で体力が低いということが残念。子どもの登下校にも問題が関わってくるのではと思う。

☆次年度からの取組みの「複数担任制」を導入することで、先生の負担を軽減し、よりよい学校作りが行われることを期待する。また、いよいよ9学年が1つの校舎にそろうことで、よりよい影響をお互いに与え、子どもたちの成長を促してくれることを期待している。

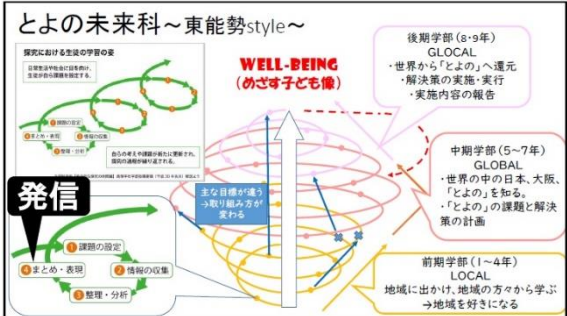
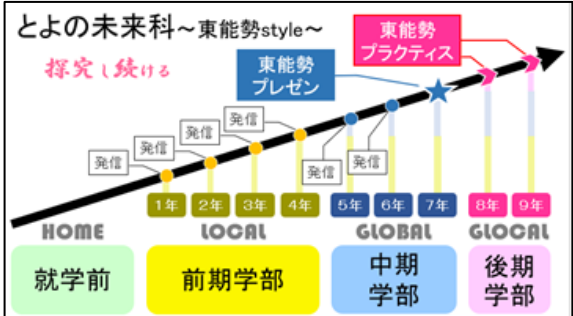
☆少人数校なので、アンケートの結果が一人の意見の影響が大きい、小さな疑問や悩みを周りの大人が見つけたいと思う。

☆自己肯定感や目標意識を高めるために、児童生徒が努力を認められるような機会を増やすべきである。

☆運動の楽しさを実感できるような学校行事の工夫が求められる。

☆中長期的な心のケアと育成を視野に、継続的な相談体制の充実を図るべきである。

☆部活動に参加してあたらしい発見もあると思うので、継続することの大切さなどを学んでほしい。

<p>①設定 目標</p> <p>②本年度 の取組み 状況</p>	<p>～つながる～ 保護者・地域・保幼小との連携</p> <p><家庭・地域との信頼関係の構築> * 家庭・地域との信頼関係構築のもと、協働で進める教育活動と情報発信による開かれた学校 * 持続可能な学びの場を提供する地域とともにあるコミュニティ・スクール</p> <p><保幼小中の連携> * 東地区保幼小中一貫教育の理念に基づくふたば園との連携と小中一貫教育校の構築 * 豊能町に誇りを持ち自己肯定感を高める取組み</p> <p><目標達成のための主な取組み></p> <p>○PTA 主催 人権講演会 (12/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1～4 年児童、保護者 (前期学部校舎) ●5～9 年児童生徒、保護者 (中・後期学部校舎) <p>【講師】 玉本英子さん (ジャーナリスト (アジアプレス))</p> <p>【テーマ】 「ウクライナの子どもたちは 今」</p> <p>【概要】 戦火やまぬウクライナ。連日、ミサイルや自爆ドローンが市民を襲います。ロシア軍が迫る地域では、攻撃がいつそう激しく、子どもたちが避難を強いられています。地下シェルターや地下鉄構内で学ぶ子どもたち。希望を失わず、日常生活を続けようとする少女。ウクライナの取材を続ける玉本さんが、取材映像を通して子どもたちの現状を伝えます。</p> <p>○とよの未来科～東能勢 style～</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>「とよの未来科～東能勢 style～」の目標は、ふるさと「とよの」の自然・環境、生活・産業、歴史・伝統などについて、探究的な見方・考え方を働かせ、具体的な活動や体験、横断的・総合的な学習を行うことを通して理解を深め、「とよの」と自分に対する自信と誇りを育むとともに、「とよの」の未来と自分の生き方とを結びつけ、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の基礎を養うことです。</p> <p>地域の方々の協力のもと、探究的な学びに子どもたちが主体的に取組み、学びを第三者へ伝える発信の活動を行うサイクルを繰り返すことで学びが深まり、また、学びに向き合う意欲を高めます。発信の方法は問わず、例えば、発表、壁新聞、インターネット、リーフレット、作品制作、商品化、ポスターなどいろんな形がある。発信する相手にしっかりと自分たちの考えたことが伝わるように工夫する中で、各教科や総合的な学習の時間の学びを連動させて、豊能町の教育資源に触れる実感を持った学びにより、学ぶ楽しさを感じ、基礎学力の必要性の実感・定着につなげていきます。また、自分で考えたことを実現していく中で達成感を味わい、自己肯定感が高まるような取組みを行っていくとともに、東能勢を愛し、誇りをもつ心を育成します。そして、地域課題に向き合っただけで学んだことを地域に還元し、地域の一員として地域の発展に貢献しようとする態度の醸成を進めます。</p>
---	--

とよの未来科～東能勢 style～☆東能勢だからできるわくわくを！
☆学校PR動画〔Long ver.〕



○周年記念事業「ありがとう東能勢『周年記念・未来祭』」

10/24 プレイベント

- ・各学年とよの未来科～東能勢 style～の取組み展示
- ・第1部 1～9年 交流会、合唱
- ・第2部 1～4年 展示鑑賞
5～9年 とよの未来科～東能勢 style～取組みプレゼン

○地域の方にご協力いただいた主な取組み

- タケノコ掘り体験〔9年〕(4/24)
【協力】朝川寺
- 米づくり 田んぼ荒起こし〔5年〕(5/8)
【講師】瀬尾さん（地域の農家の方）
- お話の会「ひまわり」による読み聞かせ
【公演者】「ひまわり」のみなさん
・学年別開催：月2回
・1～4年合同開催：月1回（10月～）
- ひょうたんスタードームづくり〔4年〕(5/13)
【講師】トヨノ部
【内容】4年がひょうたんを育てるためのヒョウタン棚の作成
- 防災学習〔8年〕(5/28)
【講師】石光さん（町危機管理専門官）
- 特定外来生物とは〔6年〕(6/3)
【講師】末廣 亘（環境省近畿地方環境事務所 野生生物課 外来生物防除専門官）
- 豊能町の特産品 ヤーコンを育てよう！〔2年〕(6/4)
【講師】とよの場
【内容】ヤーコンについてのお話を聞く、畑に一人一株のヤーコンの苗植え付け、ヤーコン果汁を使った「とよのサイダー」の試飲、ヤーコンの収穫、「とよのサイダー」のオリジナルラベルづくり
- 野菜の育て方〔2年〕(6/10)
【講師】宇都宮浩さん（野菜づくり農家の方）
- 梅ジュースづくり〔5・7年〕(7/4)
【協力】学校サポーター
- 周年事業 子ども予算要求〔7・9年〕(7/14、9/19)
【協力】ありがとう東能勢実行委員会の方
【内容】プレイベントで実施したい内容の企画提案
- 周年記念イベント「ありがとう東能勢『周年記念・未来祭』」プレイベント〔1・9年〕(10/25)
【協力】ありがとう東能勢実行委員会の方をはじめとした地域の方
【内容】「とよの未来科～東能勢 style～」を中心とした展示、企画、発表を実施
- 科学実験教室〔4・5・6年〕(10/20)
【講師】夢 LABO・豊能科学工作教室のみなさん
- 焼いも〔1年〕(12/3)
【協力】学校サポーター
【内容】粃殻を使った焼き芋を実施。自分たちで植えて、育てて、掘りおこしたサツマイモの焼いも
- しめ縄づくり〔5年〕(12/10)
【講師】地域の方、トヨノ部
【内容】児童が育てたもち米の稲藁を使ってしめ縄づくりを実施。しめ縄の由来を学び、しめ縄をない、校区でとれた自然の葉や木の実を使って飾り付け
- 米粉チーズケーキづくり〔7年〕(12/19)
【内容】地域の農家の方に米粉を提供いただき、米粉チーズケーキのレシピを自分たちで調べ、調理

- 染め物体験（10/14）
 - 【講師】オオニシカナコさん（染織家）
 - 【内容】1・2年 玉ねぎの皮を煮出した汁で染物
- 竹炭、もみ殻燻炭づくり〔8年〕（2/2）
 - 【講師】トヨノ部など
 - 【内容】防災学習で、仮設トイレの消臭剤として竹炭、もみ殻燻炭の活用を検討
- 食育〔5年〕（2/4）
 - 【講師】山上忠彦さん（オーベルジュオーナー、猟師）
 - 【内容】シカやイノシシが農作物に与える影響やその被害から作物を守るために活動されている猟師のお仕事について、また、いただくことへの感謝の気持ちを食育につなげてお話
- 木育〔5年〕（3学期）
 - 【講師】加羽英吾さん（大工）
 - 【内容】社会科の「森と生活」の授業の一環として、豊能町の木の種類、大工のお仕事、廃材の活用などについて
- 昔遊び〔1年〕（予定）
 - 【講師】地域の方
 - 【内容】こままわし、ヨーヨー、べったんなど

○地域の方にご協力いただいた取組み（環境整備）

- 学校サポーター「花植え隊」による花壇整備（不定期）
- PTA 大掃除〔前期学部〕（7/17、12/23）
- 運動場の環境整備「草刈り大作戦」（前期学部：5/24・9/6、中・後期学部 6/28・8/30）
中・後期学部は手刈りで9/16・18・24も実施

○情報発信の充実

今年度は、これまでのブログ、インスタグラム、フェイスブックに加え、新たに東能勢小中学校公式 YouTube、X のアカウントを作成し、日々の活動の発信を行いました。
学校だより発行日のメール配信に学校ブログなどの URL を記載し、閲覧へつなげました。また、メール配信時に月間予定の PDF を送信し、紙での配布とともに、予定の確認をよりしやすくしました。

○わくわく KID' S

- わくわく 放課後
地域の方が、放課後に学校の施設を活用して子どもたちの居場所を確保し、異学年で楽しい時間を過ごし、宿題を中心とした学習活動と校庭開放を実施しました。
- わくわくイベント
 - ①6/24 書道家の新貝先生ご指導による書道の体験講座
 - ②9/9 わくわく教室体験デー
- わくわくナイト～月の観測と夜の学校探検！～（7/31）
今年度は参加対象に4年を加え、4・5・6年生を対象に夏休みの夕方から、前期学部校舎を使って、学校探検、月の観測、スタンプラリーや和太鼓チーム「SCI 太鼓組 爽空（そら）」による太鼓演奏の鑑賞などを行いました。今年は吹き出し花火の鑑賞をする演出もありました。保護者の方、地域の方の協力を得て、実施することができました。

○保幼小中の連携

- 教職員間で小中一貫、小中合同運動会、東能勢フェスタの3つのプロジェクトチームを発足し、小中の連携を推進した。小中合同運動会プロジェクトには、ふたば園も参加していただき、小中合同運動会に向けて調整を行いました。
- 東能勢フェスタ（舞台の部・展示の部）
- 1～9年交流 児童会・生徒会の代表が小中合同運動会のスローガンを協議しました。（7/17）
- 運動会結団式 青団と赤団のそれぞれのチームで結団式を行いました。（8/26）
- 小中合同ピックアップ訓練（8/26）
- 小中学校合同運動会（9/25）

今年度で4回目となる東能勢小中学校合同運動会を開催しました。ふたば園の園児が参加できるプログラムを設け、保幼小中の連携を図りました。

●折り鶴を広島へ 1～9年で折った折り鶴を6年が修学旅行で広島平和記念公園へ捧げました。

●防災学習で4・7年が協働学習「防災倉庫を調べよう」を実施しました。

●3年がふたば園の園児と交流しました。

●6年生部活動体験

月に1回の小学校クラブ活動は、前期学部校舎に移動して4年生と交流しながら行っています。中学校舎にすることで中学生の部活動は身近なものになっているが、日常的な活動への参加は7年生になってからであるので、事前にすべての部活動を体験する機会を設定しました。

<学校教育自己診断の結果より>

※注釈は、学校評価報告書 (No. 1) の③参照

児童生徒アンケートの結果において、同じく肯定的な回答は下のとおりです。

「学校生活の安全に、先生たちは気をつけている」(91%←92% [58%←62%])

「地域の人たちは、学校のことにいろいろ協力してくれている」

(90%←93% [63%←64%]) [下図]

「社会や地域をよくするために何をすべきかを考えることがある」

(68%←73% [40%←28%])

「運動会などの行事や児童生徒会活動の中で、上級生を目標にしたり、お手本にしたり、下級生の目標やお手本になることを意識した」(76%←77% [32%←37%])

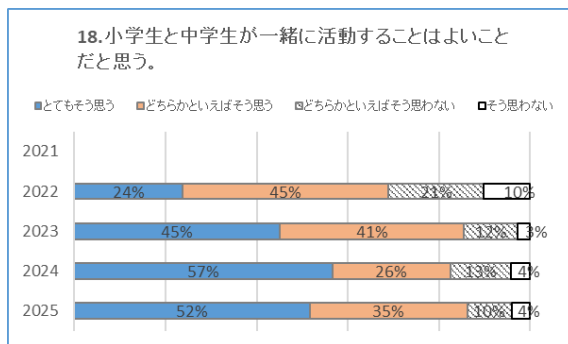
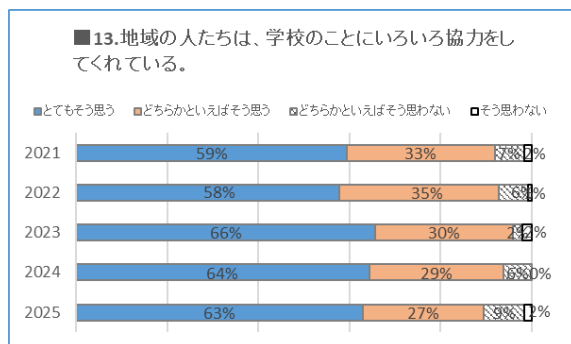
「授業などで、小学校(中学校)の先生だけでなく、中学校(小学校)の先生など多くの先生が関わってくれることはよいことだと思う」(89%←83% [52%←42%])

「小学生と中学生と一緒に活動することはよいことだと思う」

(87%←83% [52%←57%]) [下図]

地域の方が学校へ協力をいただいていることを児童生徒も認識をしており高い数値を維持しています。感謝の気持ちを持ち、気持ちをどのような形で表現できるかなどを主体的に考えることができるように取り組んでいきます。さらに、児童生徒が社会に対し自分たちにはどのようなことができるのか考え、行動へつながるよう各取組みを進めます。

③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容



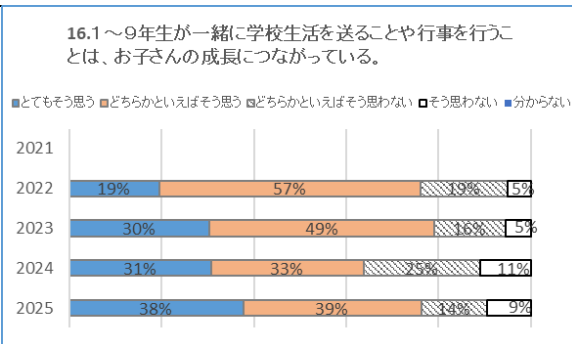
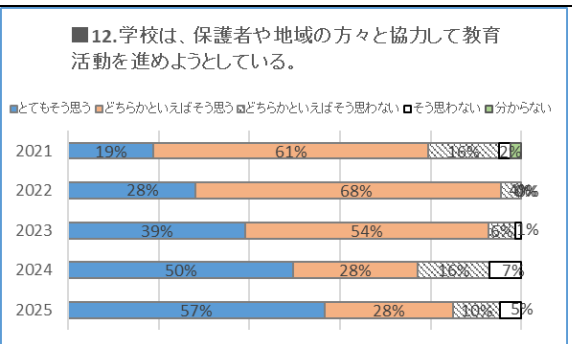
保護者アンケートの結果において、特に学力向上に関わる項目について肯定的な回答は下のとおりである。

「学校は、保護者や地域の方々と協力して教育活動を進めようとしている」

(85%←78% [57%←50%]) [下図]

「小中一貫教育校になって、よさを感じる」(56%←42% [20%←12%])

「1～9年生と一緒に学校生活を送ることや行事を行うことは、子どもたちの成長につながっている」(77%←64% [38%←31%]) [下図]



保護者や地域の方に協力いただき様々な取組みを進めることができている。探究的な見方・考え方を働かせ、具体的な活動や体験、教科学習と連動した横断的・総合的な学習を行うことを通して、生活の場である身近な地域「とよの」への理解を深め、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力の育成をめざしている「とよの未来科」。

東能勢小中学校では「とよの未来科～東能勢 style～」として、東能勢小中学校校区の人材・もの・文化などの豊富な資源を最大限に活かし、子どもたちが体験活動を通して、自ら学び自ら考え自ら発信する力の育成や、自信と誇りの育成をめざし、取組みを進めています。

小中一貫になって、よさを感じる。		そのように感じたのはどのような点ですか。(複数回答あり)			
		学習面	生活面	子どもどうしの交流	その他
とてもそう思う	20%	7	15	17	
どちらかといえばそう思う	36%	10	10	31	1
どちらかといえばそう思わない	26%	8	12	15	1
そう思わない	19%	11	9	8	5

【5・6年のみ】		そのように感じたのはどのような点ですか。(複数回答あり)			
小中一貫になって、よさを感じる。		学習面	生活面	子どもどうしの交流	その他
とてもそう思う	22%	2		1	
どちらかといえばそう思う	41%	5	3	3	
どちらかといえばそう思わない	30%	3	4	9	1
そう思わない	7%	1	4	4	

「小中一貫教育校になって、よさを感じる。」の質問について、理由とのクロス集計を行いました。また、中学校校舎で活動を行っている5・6年の保護者のみの集計も行いました。

全体の肯定的な回答は56%、5・6年保護者の方は63%と7%上回っている。その他の理由では、「同じ校舎に5、6年生がいないことや色々(各行事や校舎移動など)変化があり、来年や先のことが見えないのが不安」「小中一貫になっての変化が分からない」との意見がありました。令和8年度からは義務教育学校となり1年から9年が同じ校舎で過ごします。その強みを活かすとともに、改善すべき点については具体的な検討を順次進めています。

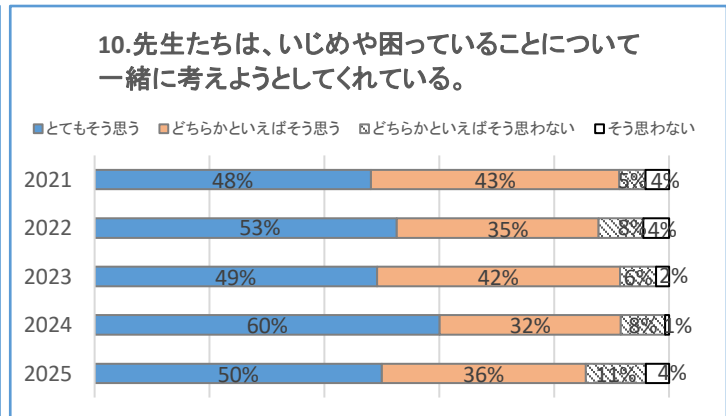
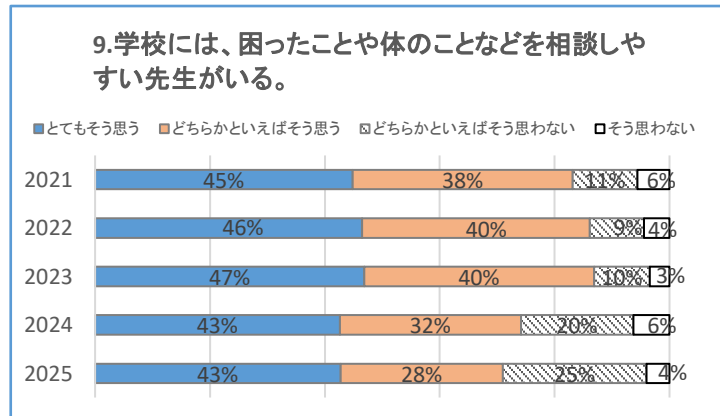
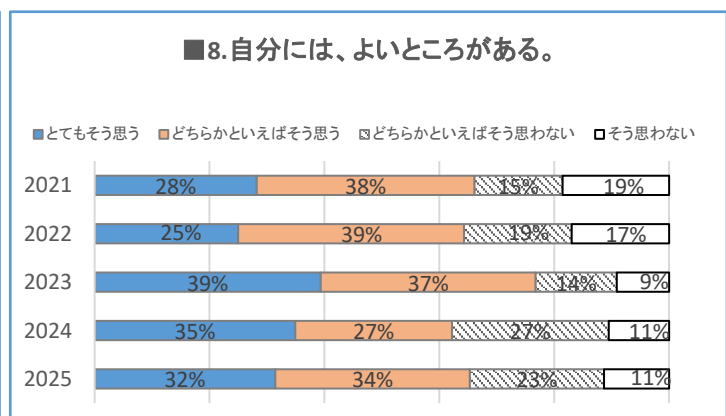
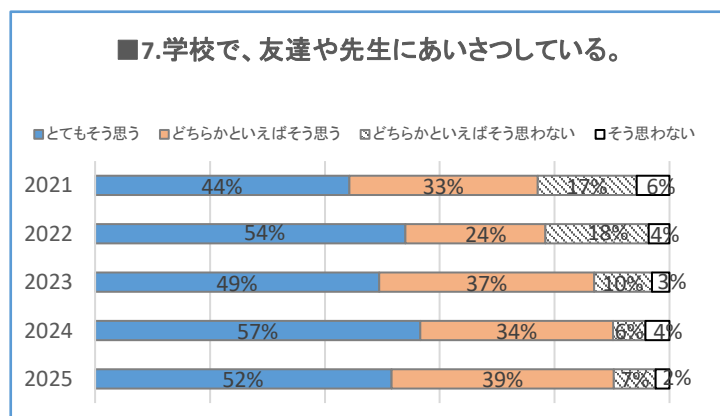
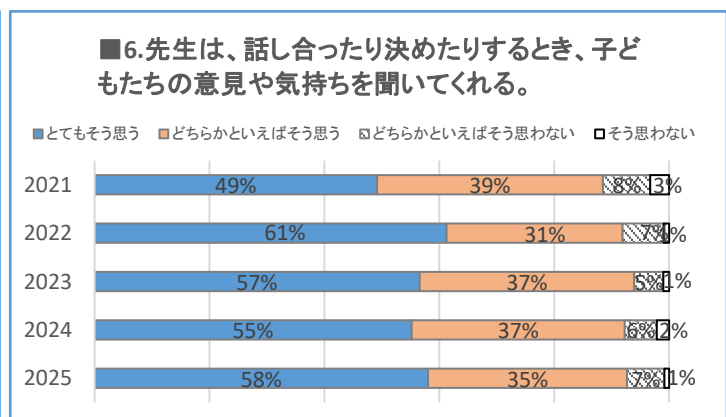
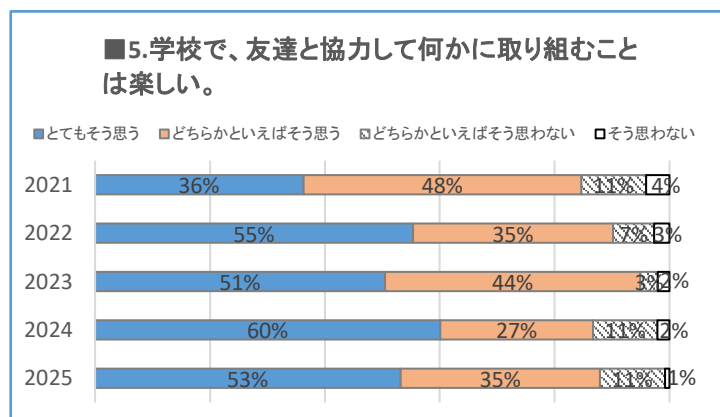
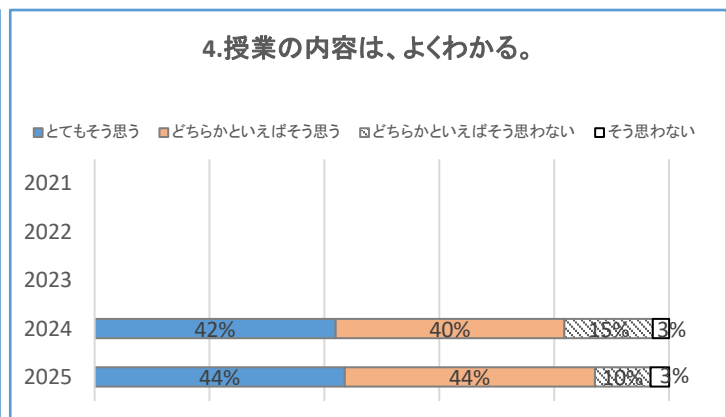
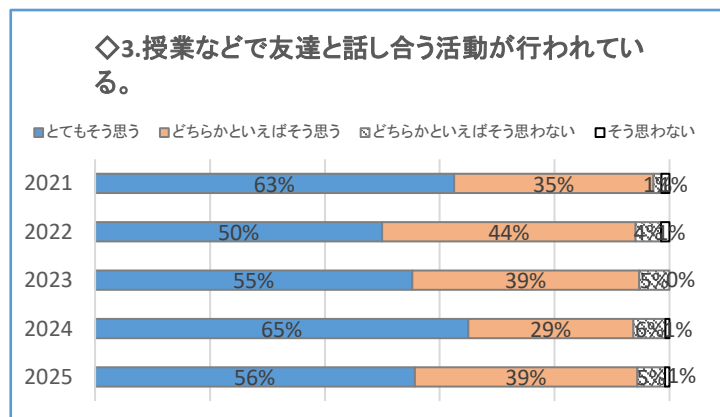
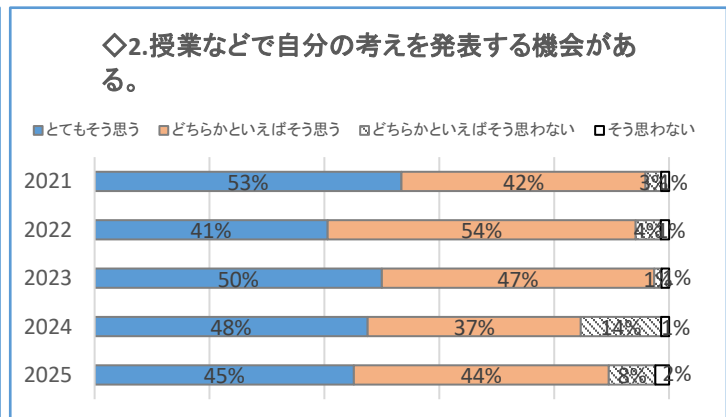
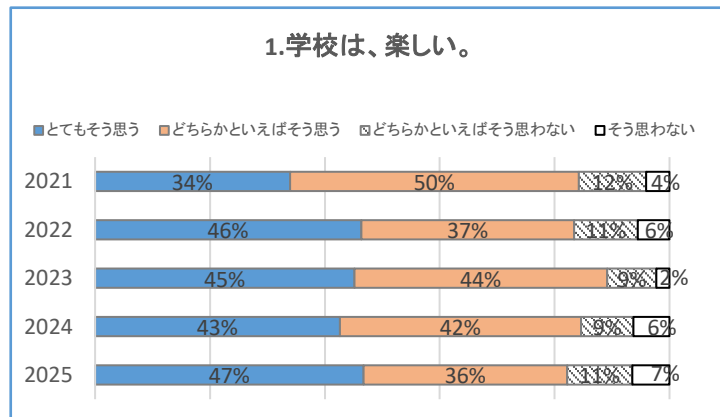
④ 学校関係者評価 (学校運営協議会等からの提言)

- (○) 評価できる点 (●) 課題とする点 (☆) 提言等
- 小中一貫になることへの理解、肯定感が上がってきているのを感じる。
- とよの未来科は、東能勢小中らしい地域に根差した取組みであり、子どもたちの豊かな経験の為に是非継続、強化してほしい。
- 保幼小中連携については、ふたば園交流や園児の運動会への参加により、子どもたちの縦割り連携へ意識は自然に生まれると感じる。
- 実際に子どもたちがここ数年でずいぶん落ち着いてきたこと、一番心身が落ち着かない学年が責任ある位置づけになったことで、しっかりしてきたこと、小学生から中学生へ移るしんどさが低くなってきたことなどが良い影響を与えているように思われる。
- 地域の方との取組みが多くあるのは、地域側にとっても活躍の場があり、関係が持てたりなどして双方にとってよいことだと思います。豊能町はとても良いところだと思いますので、地域のことを知り、地域に誇りをもってもらいたいです。小中一貫で他学年の子どもと関わることができることも強みではないかと思います。
- 来年度入学する校舎が変わるということで、中学校校舎へ見学に行かせてもらったのはよかった。
- 地域の方と協力作業について、保護者の「とてもそう思う」評価が年々高くなっていて良い。17番や18番の質問から、子どもたちは小中9年の活動に慣れてきて、良い傾向。

- 「とよの未来科～東能勢 style～」により、地域資源を活用した探究的な学びが充実している。
- 保幼小中の連携が積極的に行われている。
- PTA 活動や学校サポーター、地域行事などに多くの保護者・地域の協力が得られている。
- とよの未来科の取り組みでは、子どもたちが自分たちの身の回りのことに気づき改善していくための方法を探求するなど主体的に取り組んでいるのは評価できる。今後も積極的に進めてほしい。
- とよの未来科に関わった地域の方々に出会い、体験することで、地域の方々とも子どもたちがつながって地域の改善につながってほしい。
- 地域の方々協力している、小中学生と一緒に活動することはよいと肯定的に考えている保護者が9割近くおられることは、これまで行われてきた学校活動が肯定的にとらえられていることだと考えられる。
- YouTube・Xなどを活用した学校情報の発信に積極的である。
- 人権講演会、地域の方にご協力いただいた主な取り組み、わくわく KID, S が地域の方のご協力に感謝、家庭環境が変わるなかで、子ども達にはいい経験になっている。
- 「とよの未来科～東能勢 style～」の取り組みは大変すばらしい。
- 子どもたちは地域の方々、いろんな場面で、自分たちや学校に協力していただいていることに高い意識を持っている。
- 教職員の自己診断の回答結果がほとんどの項目で高い評価でうれしく思う。自信やパワーを感じる。
- 中・後期学部の児童生徒がコラボ授業をしたり、中学校校舎で実際に生活や様子を見たりすることで意識改革もでき、主体的に考動に移していくことができる。
- 園と前期・中期・後期学部の異年齢間交流が増え、子どもたちにとって良いことだと思う。
- 小中一貫教育の良さが分かりづらい・変化が見えにくいという保護者の声の一部にある。
- 地域課題への子どもたちの関心や、行動につなげる力の育成にはさらなる工夫が必要。
- 児童生徒は、他学年との交流や地域の人とのかかわりに慣れてきて（当たり前すぎて）特別なことと感じなくなってきたのか、評価が下がったように思う。残念。
- PTA が無くなることで、保護者と学校のつながりが希薄になることが懸念される。また、学校のサポートも手薄になりそうなので、地域といかに連携して協力を得られるかが重要な課題となりそうだ。その地域との関連を取り持つ CS の位置づけも、より大事な時期になってくるので、課題が多くなりそうだ。
- 今年度は、行事なども忙しく、1、2年生との交流もぎりぎりになって決まったので（インフルエンザの流行で中止となったが）来年度は、学校も園も体制が変わるので、再度必要性と年齢や回数など、年度の初めに話し合いの場を設け、窓口になる職員も決めたいうえで、年間でどのように取り組んでいくのか決めていけたら嬉しい。また、新しい体制にどの所属もなっていくので、大変だが、幼小接続カリキュラムの作成も一緒に行っていけたらと思う。園ももっと学校（特に1年生）のカリキュラムを知りたいうえで、保育をする必要を感じているので、両方で参観期間を設けるなど、交流していきたい。
- ☆小中一貫教育の成果や特色をより具体的に伝える発信を強化すべきである。
- ☆地域に貢献する活動に児童生徒が主体的に関われるよう、発信や実践の機会を計画的に設けるべきである。
- ☆保護者・地域の声を学校づくりに反映する場の充実が期待される。
- ☆私は豊能町の空き家バンクの手伝いをしているのですが、子育て世代の移住促進という切り口で考えても、自然資源と地域人材を活用した東能勢ならではの教育はとても魅力的であり、是非強化すると共に、発信も強めて欲しい。
- ☆ふたば園の保護者に向けて、縦割りの意識を持ってもらうための働きかけは今後も定期的に必要だと感じる。
- ☆これから始まる1から9年生が同じ校舎で生活することで、前期学部の子どもたちの意識も変わらと思う。見守りたい。
- ☆保幼小中一貫教育校になり、生徒数減少の中での縦割り集団の良さを強みにした仲間作りを期待しています。
- ☆来年度から1～9年生が同じ校舎で過ごすことになる。一緒に過ごしたり活動したりする長所を生かした取り組みが今後行われていくことを期待します。

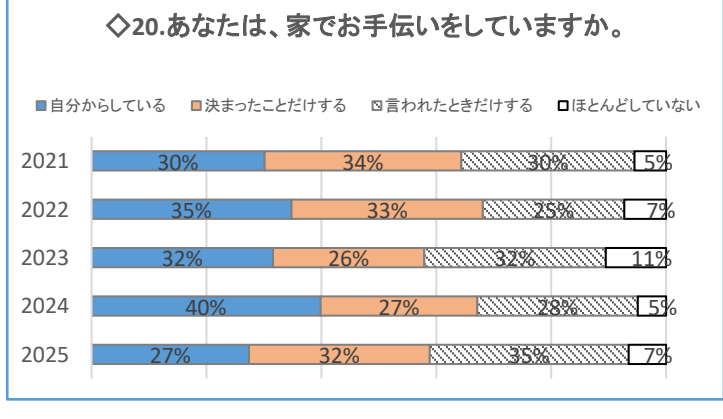
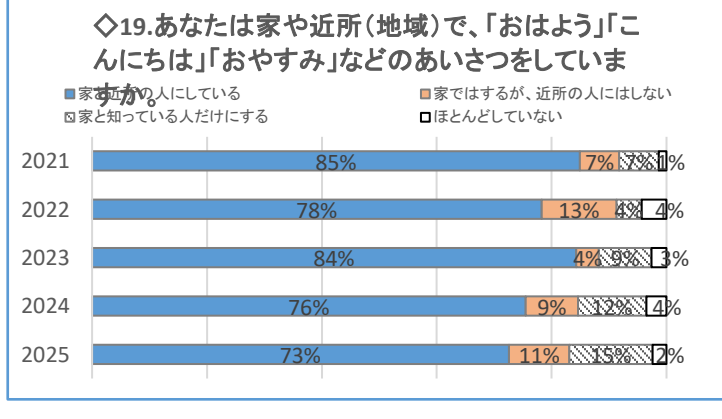
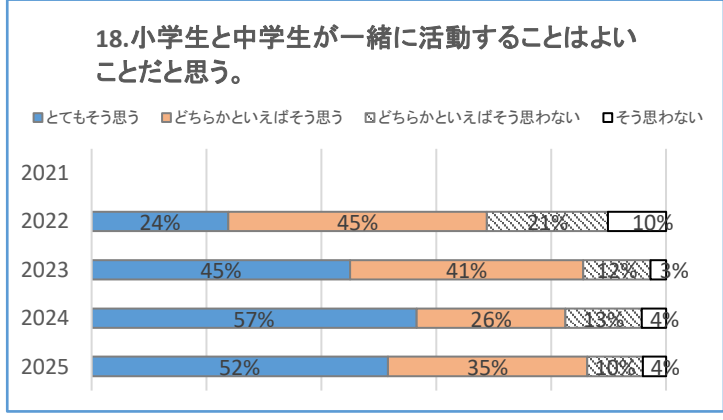
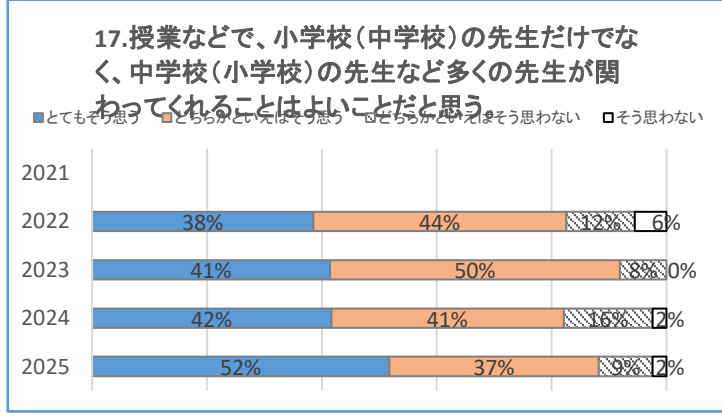
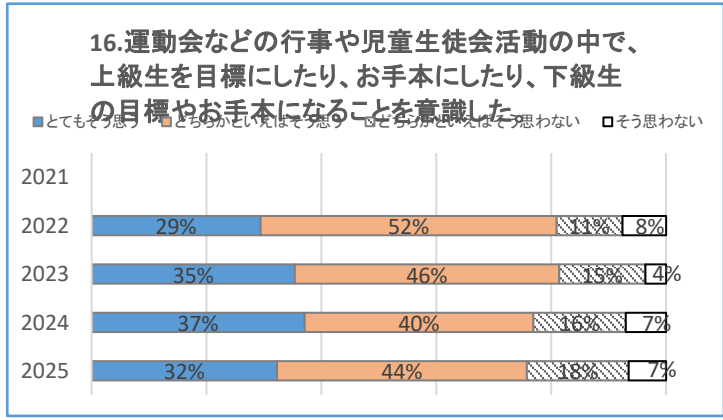
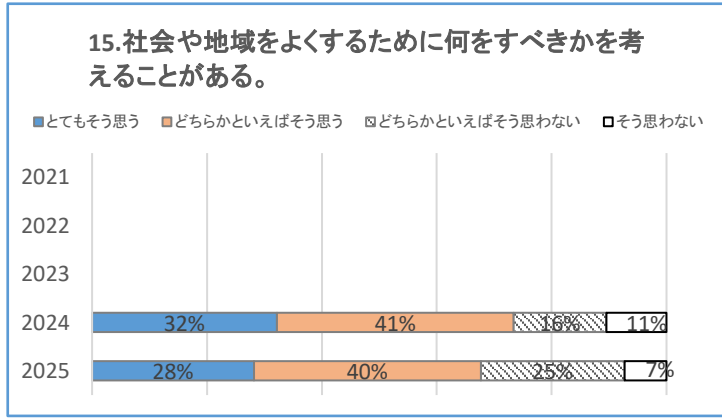
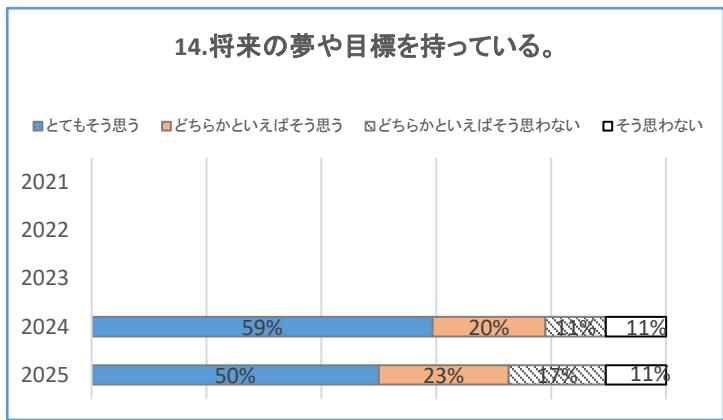
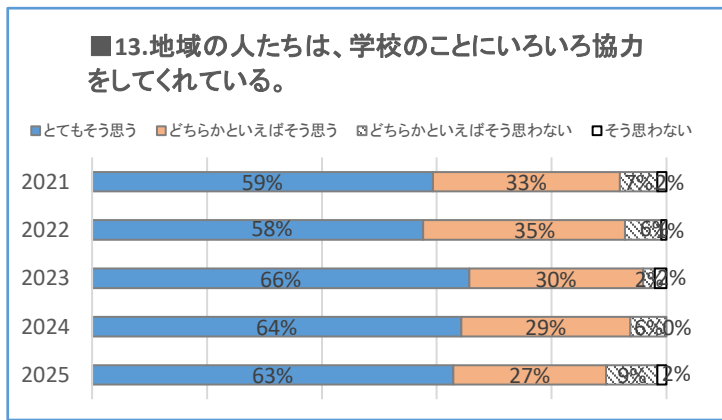
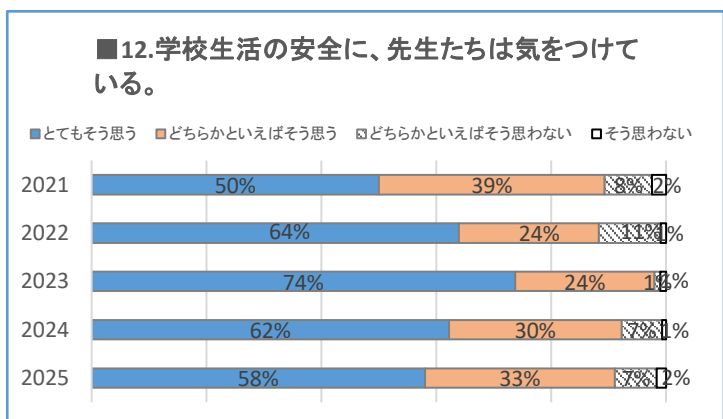
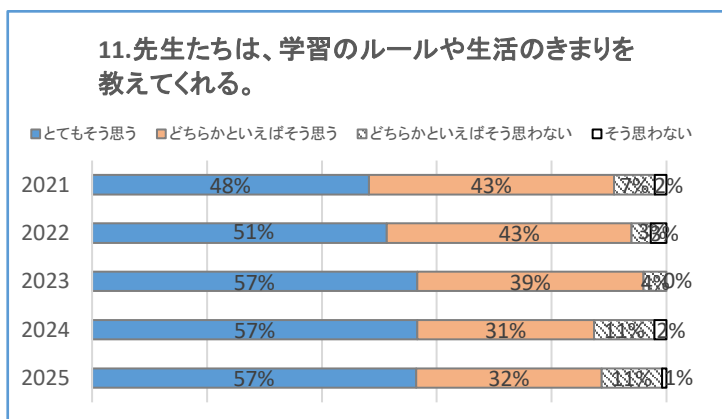
令和7(2025)年度学校教育自己診断【児童生徒】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみ ◇…2023年度まで中学校のみ で質問していた設問の結果の数値
 その他の質問は、これまで小学校と中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数



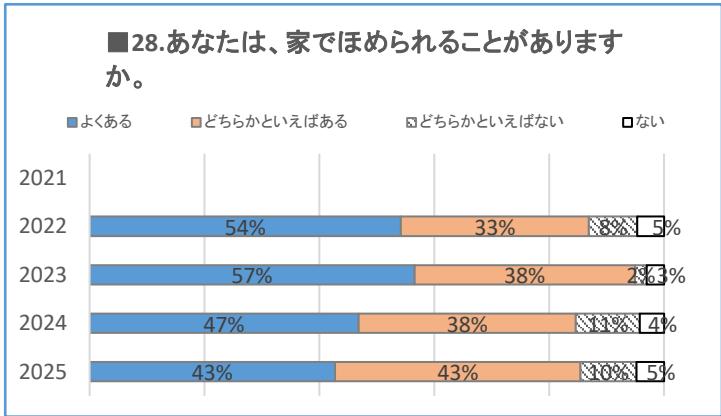
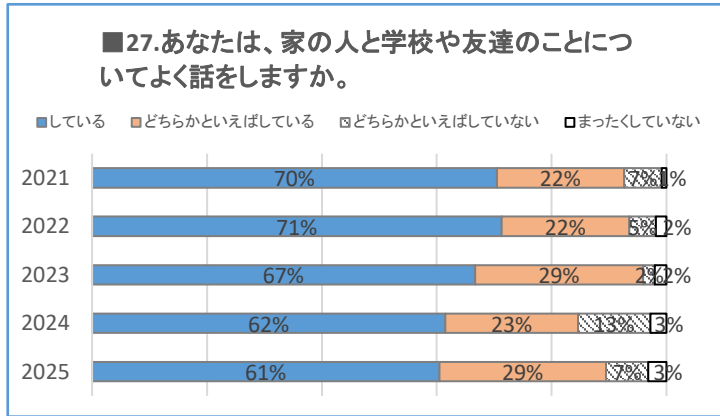
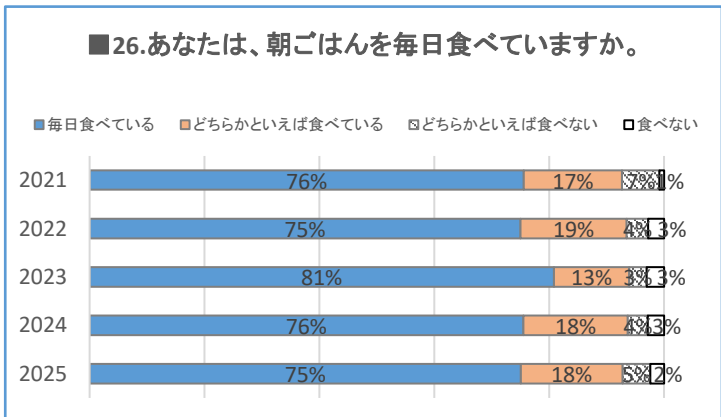
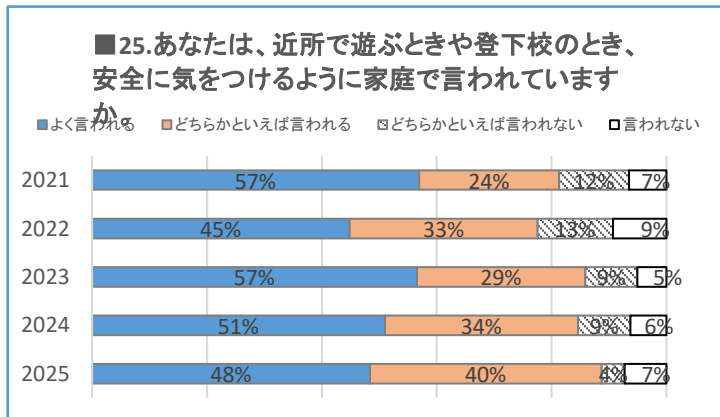
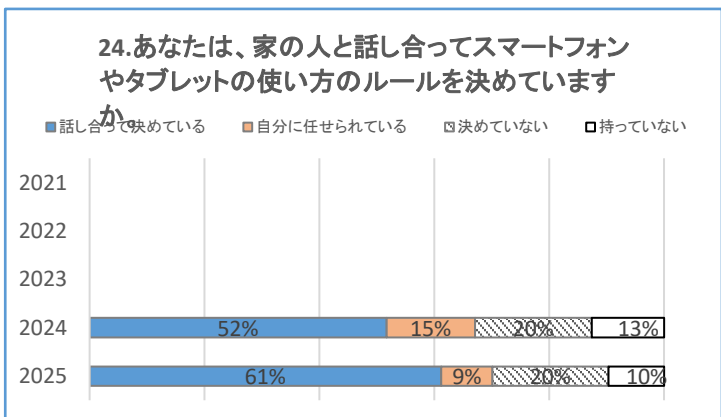
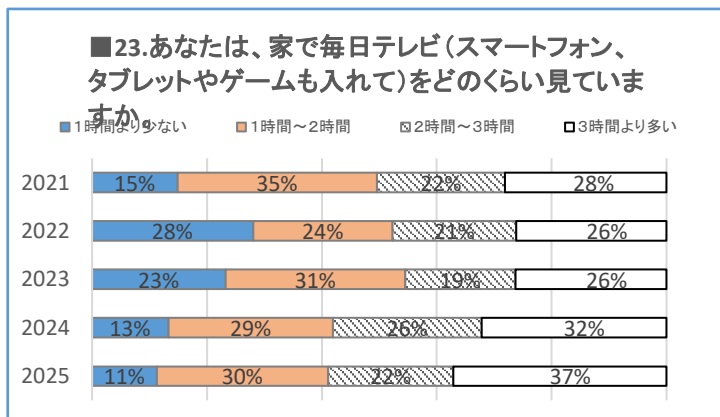
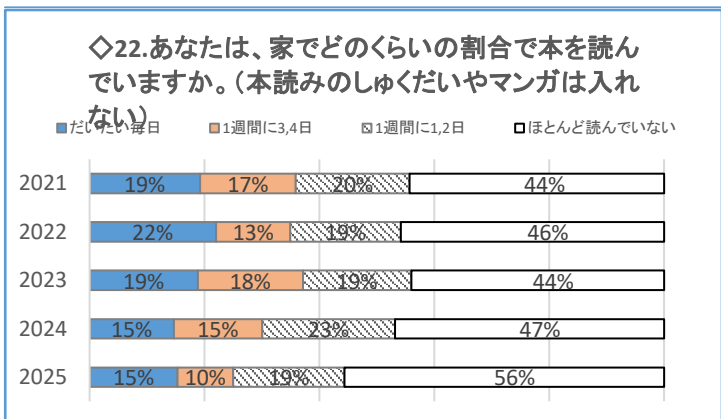
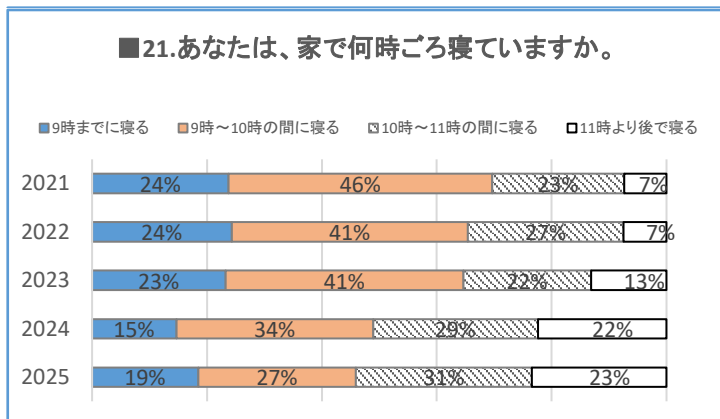
令和7(2025)年度学校教育自己診断【児童生徒】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみ ◇…2023年度まで中学校のみ で質問していた設問の結果の数値
 その他の質問は、これまで小学校と中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数



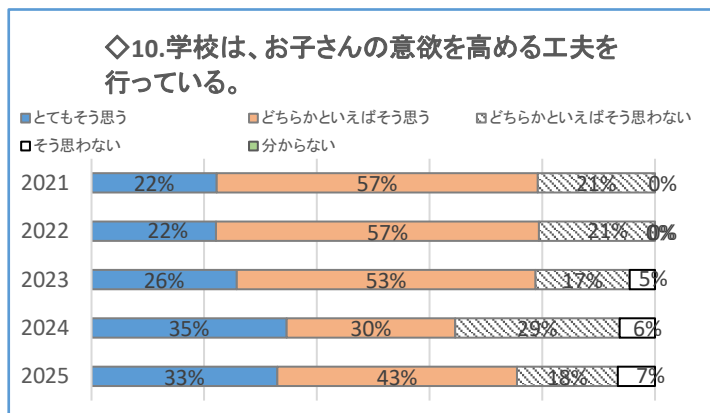
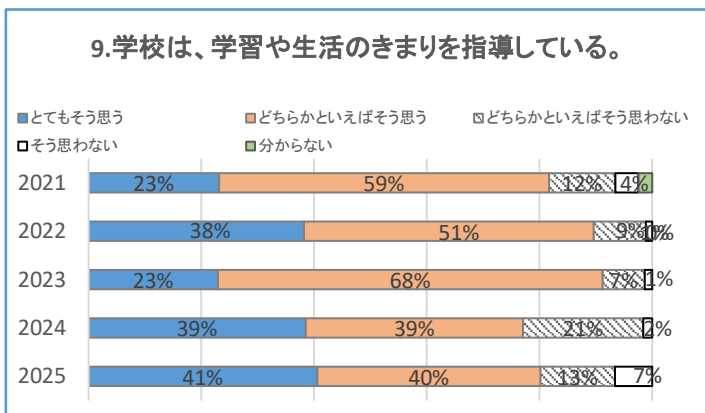
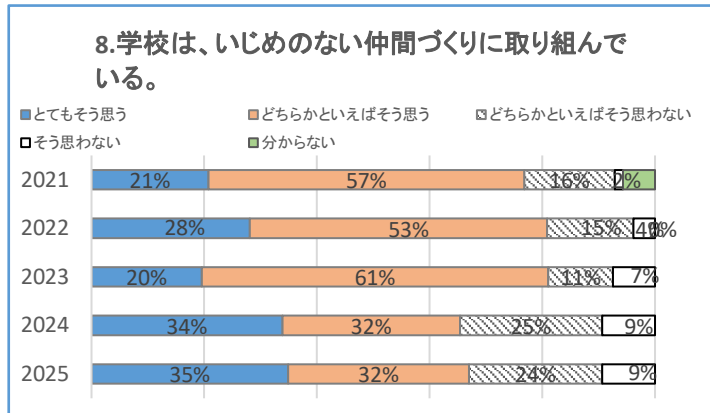
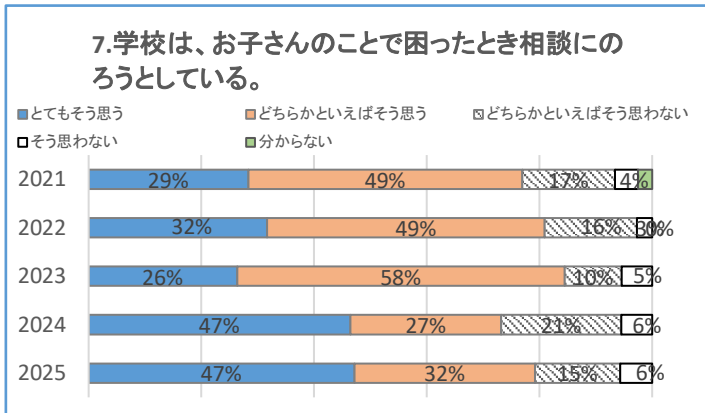
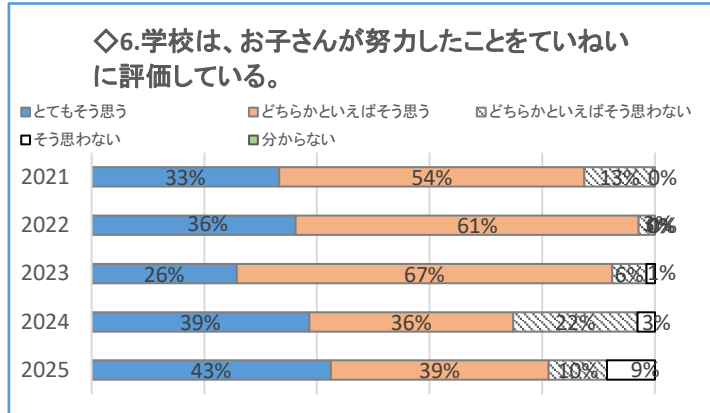
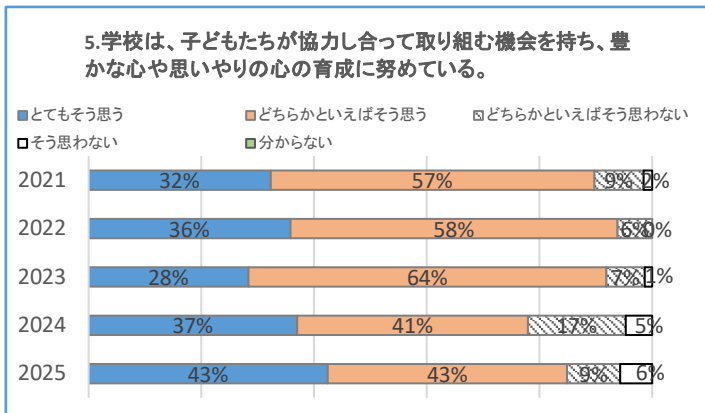
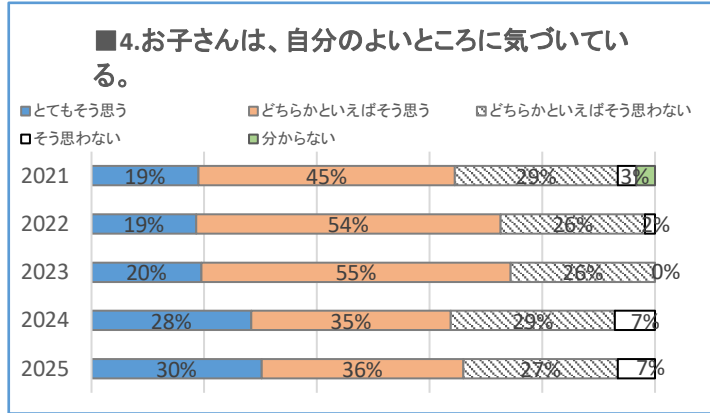
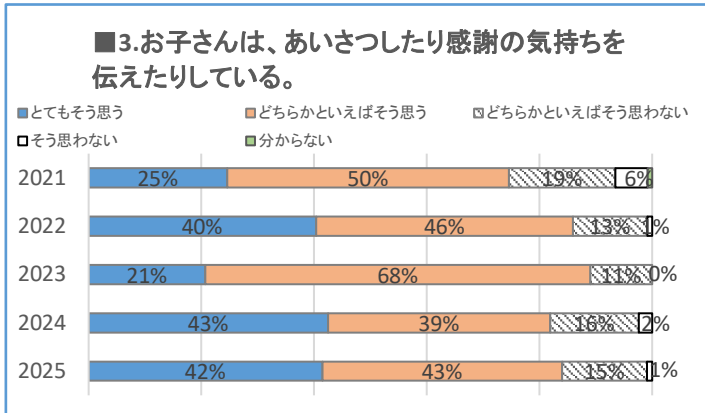
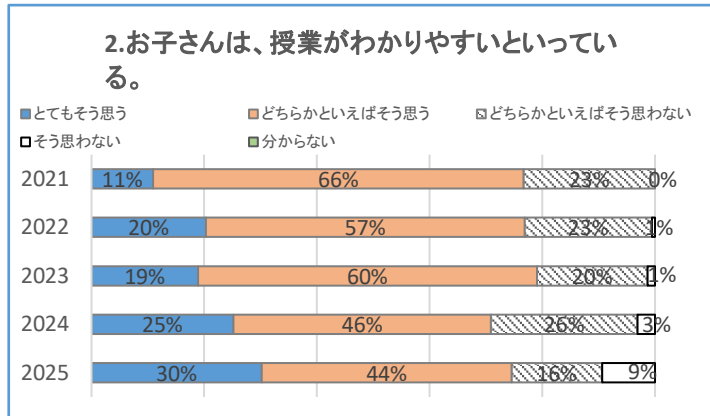
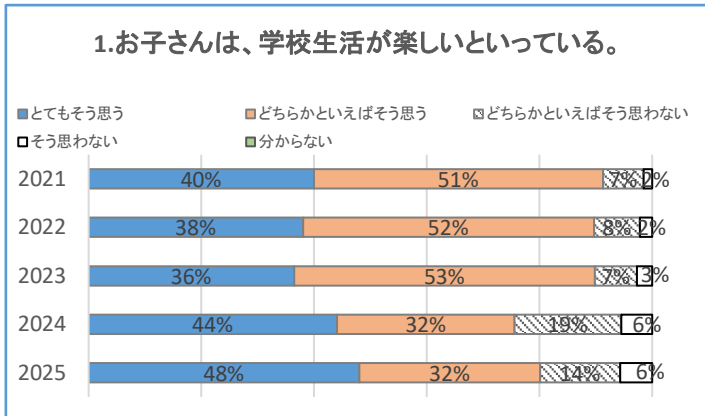
令和7(2025)年度学校教育自己診断【児童生徒】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみ ◇…2023年度まで中学校のみ で質問していた設問の結果の数値
 その他の質問は、これまで小学校と中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数



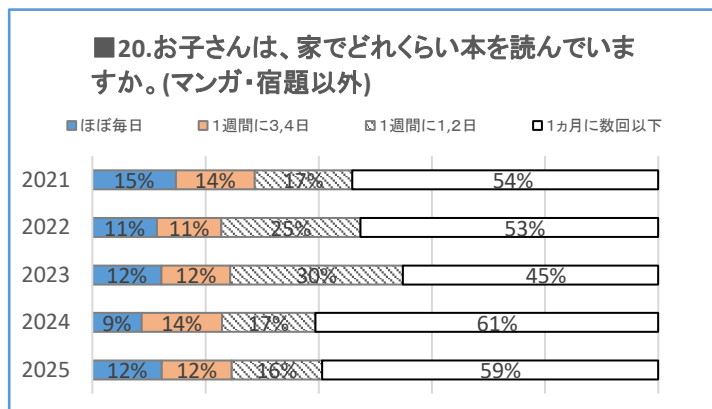
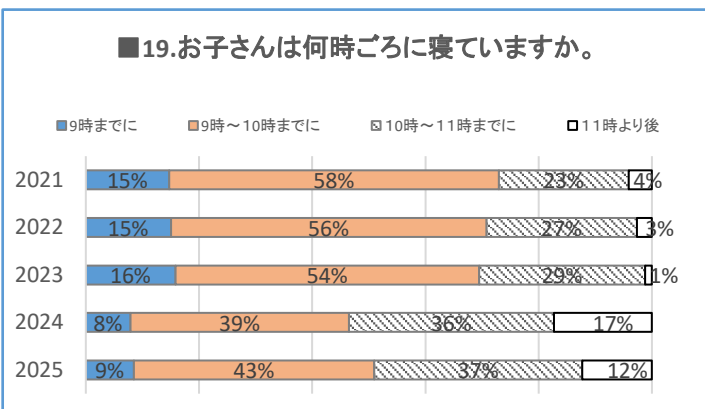
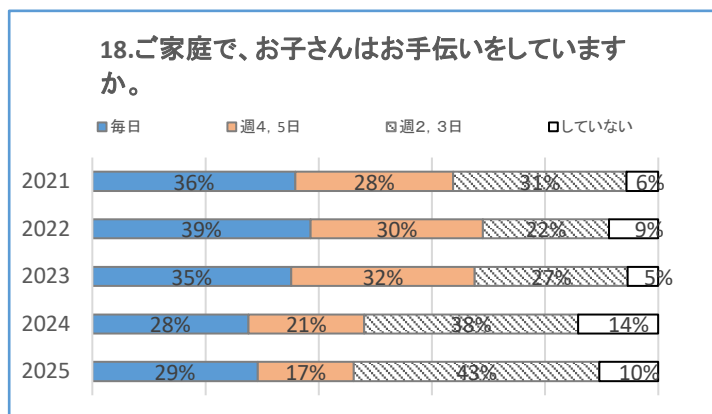
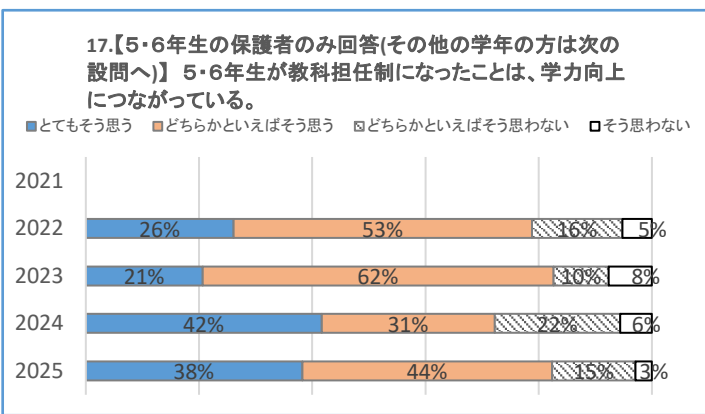
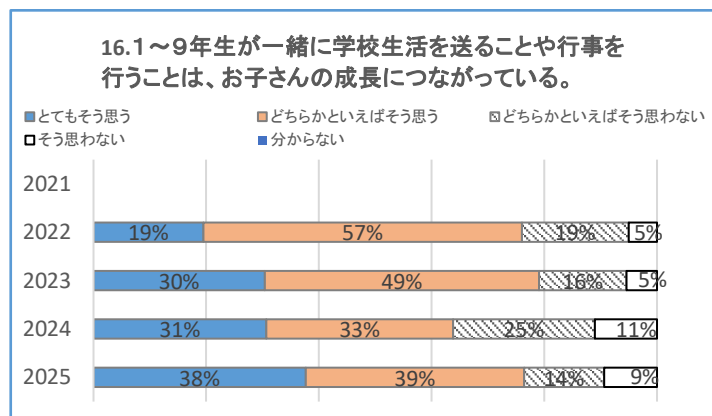
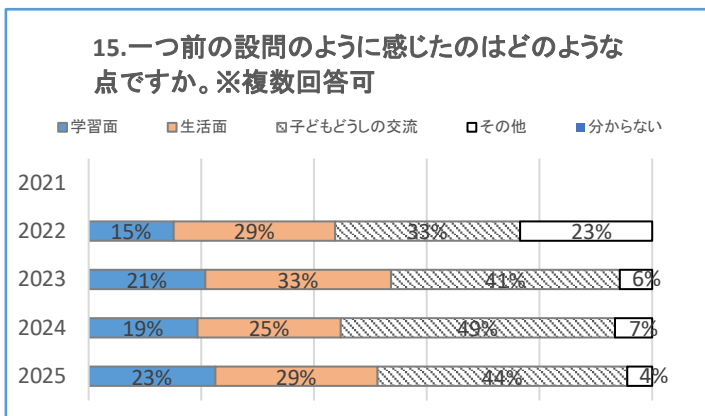
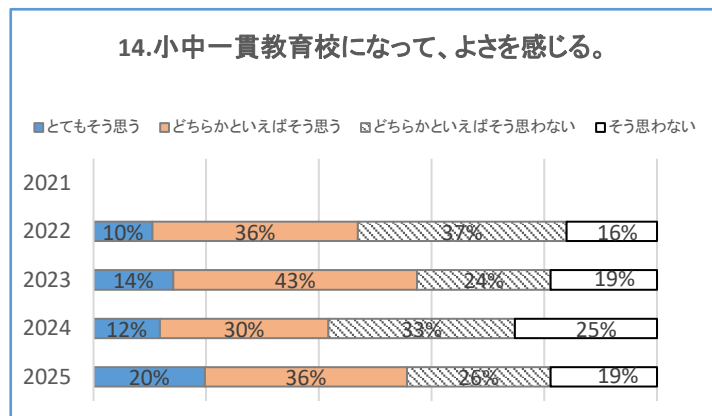
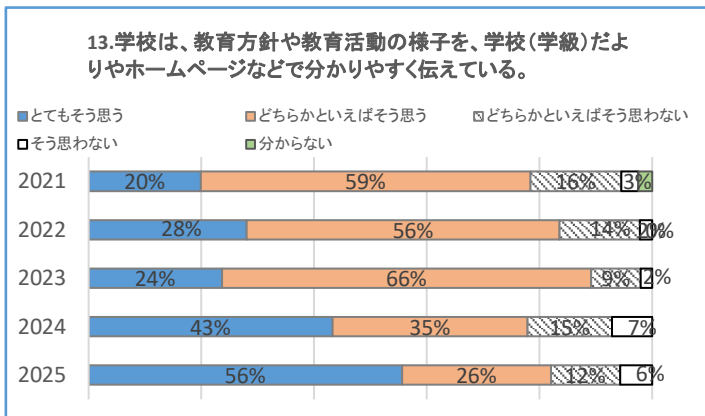
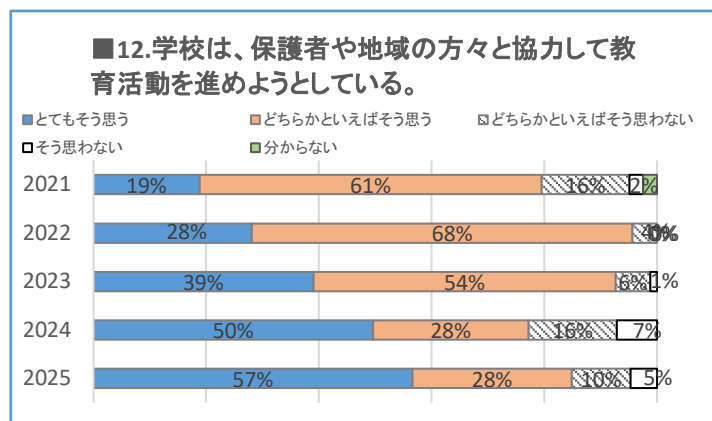
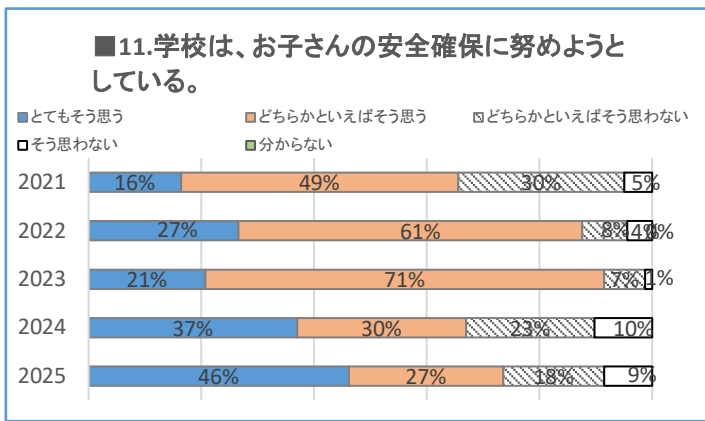
令和7(2025)年度学校教育自己診断【保護者】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみ ◇…2023年度まで中学校のみ で質問していた設問の結果の数値
 その他の質問は、これまで小学校、中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数



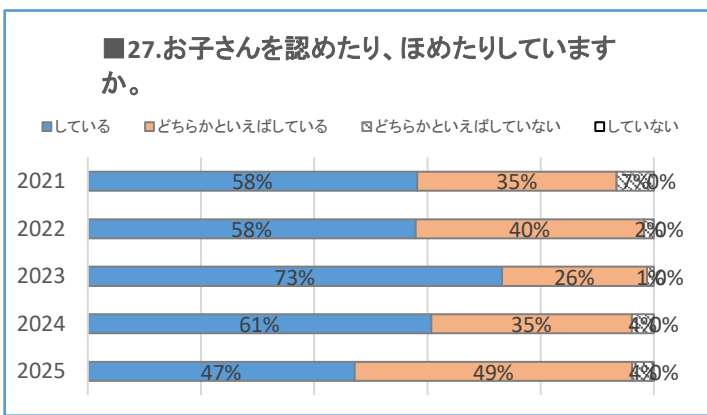
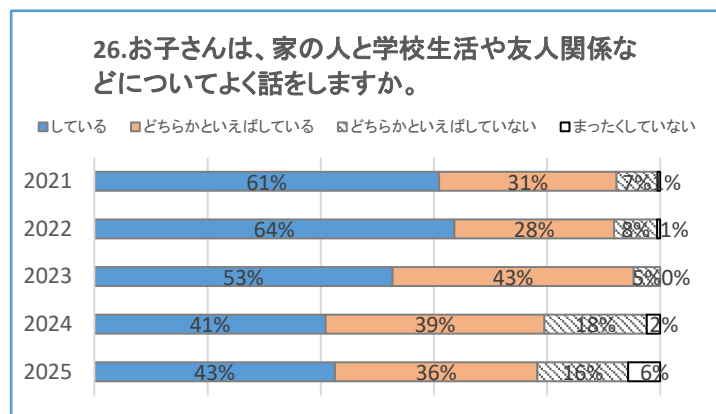
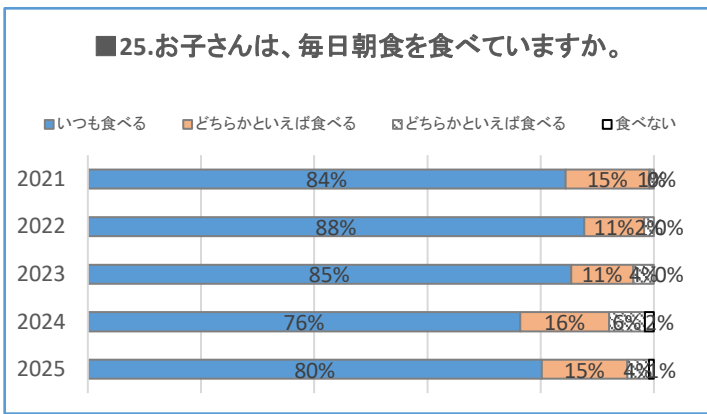
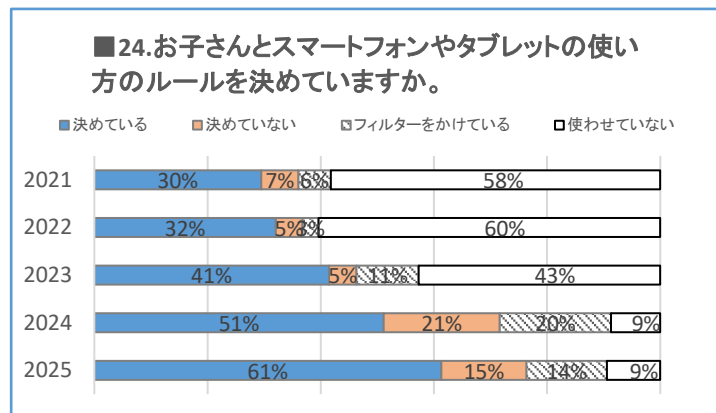
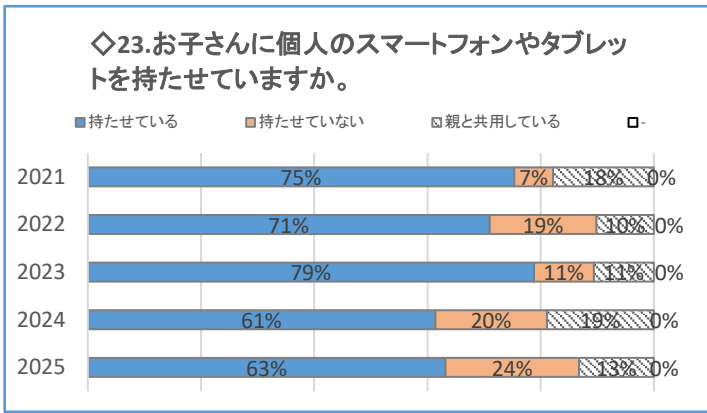
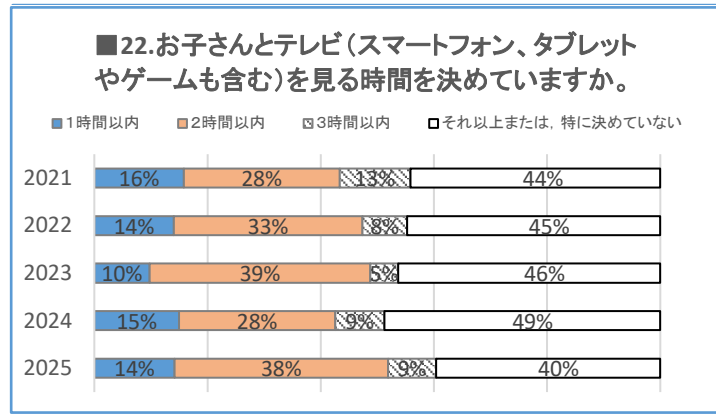
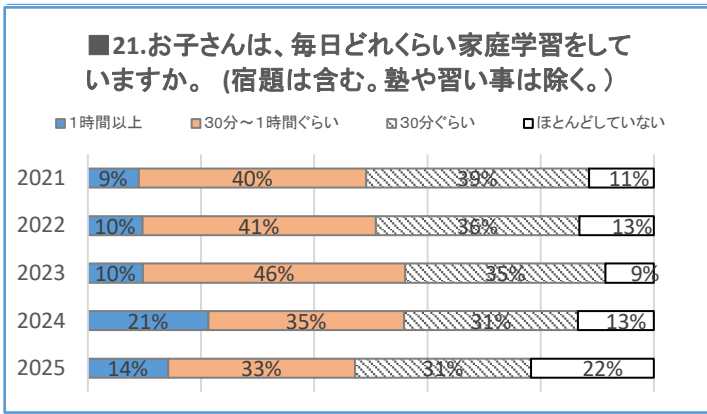
令和7(2025)年度学校教育自己診断【保護者】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみ ◇…2023年度まで中学校のみ で質問していた設問の結果の数値
 その他の質問は、これまで小学校、中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数



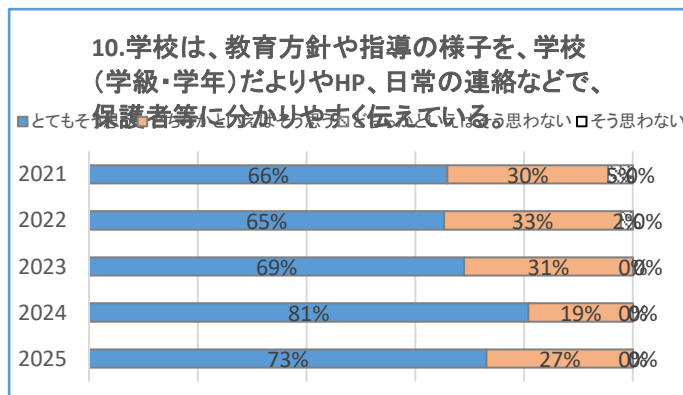
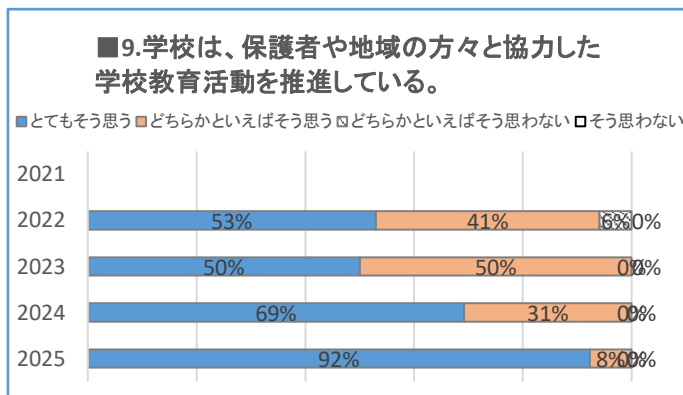
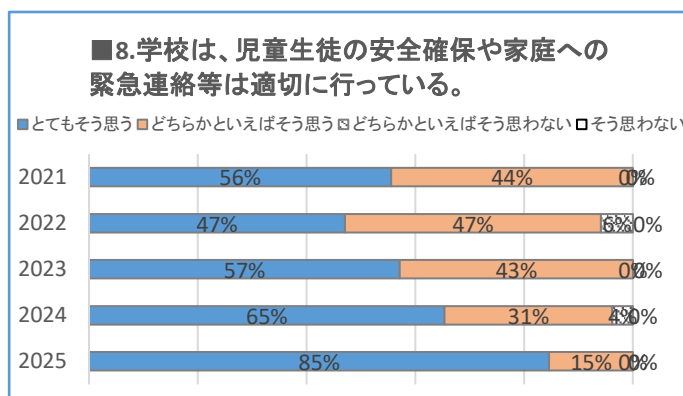
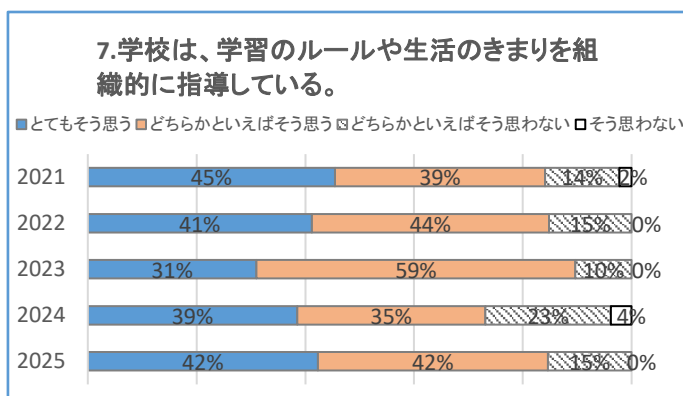
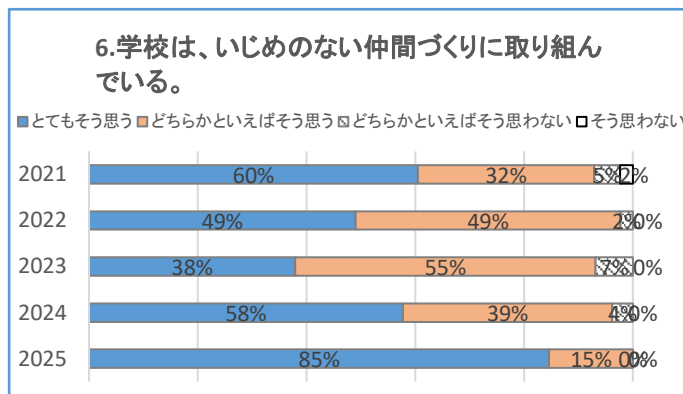
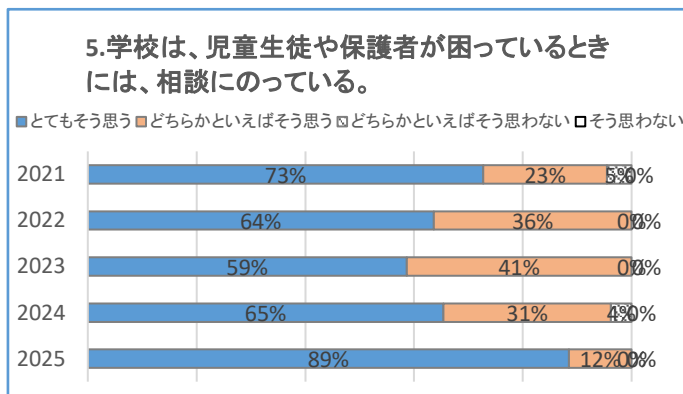
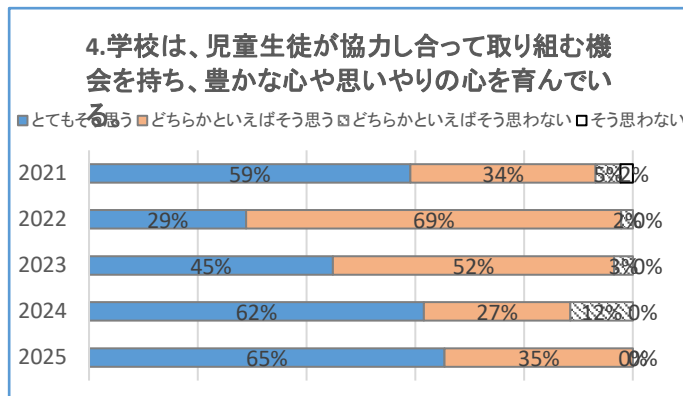
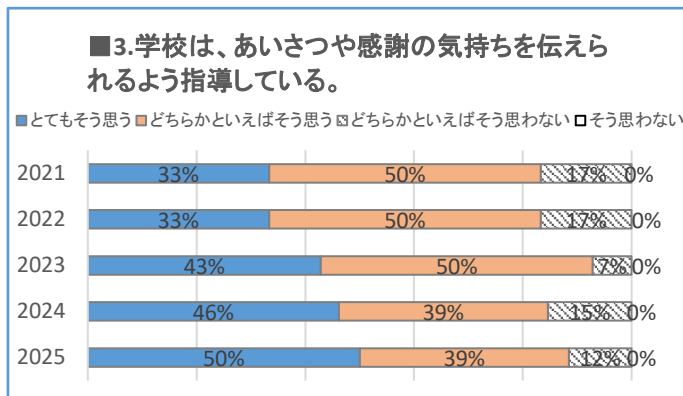
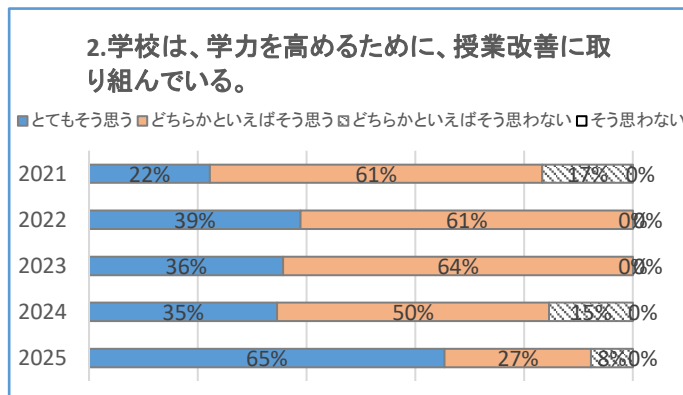
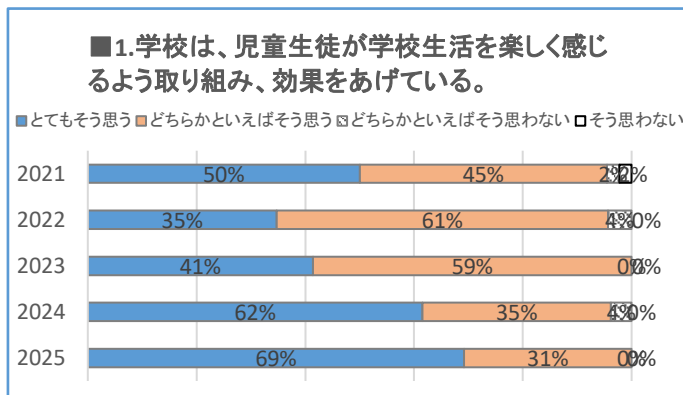
令和7(2025)年度学校教育自己診断【保護者】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみ ◇…2023年度まで中学校のみ で質問していた設問の結果の数値
 その他の質問は、これまで小学校、中学校で実施していた同趣旨の設問を合計した数



令和7(2025)年度学校教育自己診断【教職員】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみで質問していた設問の結果の数値



令和7(2025)年度学校教育自己診断【教職員】 アンケート結果一覧

※設問の前に ■…2023年度まで小学校のみで質問していた設問の結果の数値

